令和6年旭市議会第4回定例会委員会会議録目次

建設経済常任委員会 令和6年12月16日（月）

付議事件	1
出席者	1
欠席委員	1
傍聴議員	1
説明のため出席した者	1
事務局職員出席者	1
開会	3
議案の説明、質疑	4
議案の採決	17
閉会	18

文教福祉常任委員会 令和6年12月17日（火）

付議事件	21
出席者	21
欠席委員	21
傍聴議員	21
説明のため出席した者	21
事務局職員出席者	22
開会	23
議案の説明、質疑	24
議案の採決	47
閉会	48

総務常任委員会 令和6年12月18日(水)

付議事件	5 1
出席者	5 1
欠席委員	5 2
傍聴議員	5 2
説明のため出席した者	5 2
事務局職員出席者	5 2
開会	5 3
議案の説明、質疑	5 4
議案の採決	8 5
閉会	8 7

建設経済常任委員会

令和6年12月16日（月曜日）

建設経済常任委員会

令和6年12月16日（月曜日）

付議事件

《付託議案》

議案第 9号 旭市下水道条例の一部を改正する条例の制定について

議案第11号 指定管理者の指定について

（旭市飯岡刑部岬展望館及び上永井公園）

出席者（7名）

委員長	片桐 文夫	副委員長	永井 孝佳
委員	向後 悦世	委員	宮澤 芳雄
委員	井田 孝	委員	戸村 ひとみ
議長	飯嶋 正利		

欠席委員（なし）

傍聴議員（3名）

議員	松木 源太郎	議員	伊場 哲也
議員	常世田 正樹		

説明のため出席した者（14名）

副市長	飯島 茂	商工観光課長	大八木 利武
農水産課長	伊藤 弘行	建設課長	齊藤 孝一
都市整備課長	飯島 和則	上下水道課長	多田 一徳
農業委員会 事務局長	戸葉 正和		
その他担当 職員	7名		

事務局職員出席者

事務局長

穴 澤 昭 和

事務局次長

黒 柳 雅 弘

副主幹

菅 晃

開会 午前10時 0分

○委員長（片桐文夫） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

本日、建設経済常任委員会に付託されました2議案、慎重審議よろしくお願ひしたいと思います。なお、この会議が終わり次第、2か所の視察を行いますので、スムーズな進行のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立いたしました。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

本日、飯嶋議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願ひいたします。

よろしくお願ひします。

飯嶋議長。

○議長（飯嶋正利） おはようございます。

委員の皆さん、大変ご苦労さまでございます。

連日、本当に冷え込みが厳しくなってきました、体をご自愛いただきながらよろしくお願ひしたいと思います。

本日は、付託いたしました2議案について審査をいただくことになっております。どうぞ慎重なるご審議をお願ひいたしまして、簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきますと思います。

それでは、片桐委員長、よろしくお願ひいたします。

○委員長（片桐文夫） ありがとうございます。

議案説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、飯嶋副市長よりご挨拶をお願ひいたします。

飯嶋副市長。

○副市長（飯嶋 茂） 改めまして、おはようございます。

本日は、建設経済常任委員会の開催、大変お疲れさまでございます。

本日の委員会に審査をお願ひいたします議案は、全部で2議案でございます。

その内訳でございますが、条例関係が1議案で、議案第9号、旭市下水道条例の一部を改正する条例の制定について。それから、指定管理者の指定についてが1議案で、議案第

11号、旭市飯岡刑部岬展望館及び上永井公園についてでございます。

執行部といたしましては、委員の皆様からの質疑に対し、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、何とぞ、両議案可決くださいますようお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

よろしく願いをいたします。

○委員長（片桐文夫） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（片桐文夫） ただいまから、本委員会に付託されました2議案の審査を行います。

初めに、議案第9号について、補足説明がありましたらお願いいたします。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 議案第9号につきましては、本会議において補足説明を申し上げたとおりでありますので、加えての説明はございません。

よろしく願いいたします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第9号について、質疑がありましたらお願いいたします。

井田委員。

○委員（井田 孝） この新旧対照表による、「大腸菌群数」と「大腸菌数」の違いとか、単位が違うのか何が違うのか、その辺を少し教えていただきたいのと、「第1号に定める基準より厳しい排水基準が定められている場合」というのは、どういう場合があるのかを2点お聞きします。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対して答弁を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 「大腸菌」と「大腸菌群数」ですが、大腸菌は、その名のとおり、大腸菌だけの菌でありまして、大腸菌群数といいますのは、大腸菌と大腸菌以外のほかの菌を含めたもので、大腸菌群というふうな形で呼んでおります。

現在、厚生労働省から環境省のほうに水質の関係は移りまして、環境省の定めたものよりも厳しい基準というのが、県のほうでの水域によりまして定められておりまして、県の

ほうの水域で、厳しい基準が定められているということになります。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） 基準が定められるのは、排水する地域によって、千葉県内でこの地域はさらに一層厳しい基準ですよとか、そういう考えということによろしいでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対して答弁を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 地域につきましては、第1種、第2種というような形で分けられてはおりますけれども、旧江戸川河口から富津岬に至る陸岸の地先海域ですとか、第2種水域でいいますと、富津岬から洲崎灯台に至る陸岸の地先の海域というような形で分けられています。それ以外を第3種水域と、第1種と第2種以外を第3種水域という、3つに分かれています、県内につきましては。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） 第1種、第2種が厳しい基準で、第3種は厳しい基準ではないという考え方でよろしいということですか。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対して答弁を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） その水域ごとに、国の基準に上乘せした厳しい基準というようなものが設けられているような状況です。

○委員長（片桐文夫） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

向後委員。

○委員（向後悦世） 今、井田委員の説明に関連、ちょっとしますが、この水質はどのように測定しているのか、年に何回測定するのか、それとも常時測定しているのか、お尋ねしたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対して答弁を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 大腸菌のほうの検査につきましては、週1回行っております。

○委員長（片桐文夫） 向後委員、よろしいですか。

向後委員。

○委員（向後悦世） 水質基準の検査は大腸菌だけですか。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対して答弁を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 水質については、大腸菌だけではございません。検査している項目について、34項目ございます。

○委員長（片桐文夫） 向後委員、よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第11号について補足説明がありましたらお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 議案第11号、指定管理者の指定について補足説明を申し上げます。

本日、委員の皆様へ配付をさせていただきました審査基準表についてご説明をさせていただきます。

旭市公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例第4条の第1号から第4号において、候補者選定の基準が定められていますが、それらを考慮し、飯岡刑部岬展望館及び上永井公園施設に合わせまして、本日お示ししました審査基準表を作成いたしました。

審査につきましては、去る8月20日に、市民の代表及び学識経験者等を含めた旭市指定管理者候補者選定委員会を開催し、応募者のプレゼンテーション及び委員による質疑を行い、その後、審査基準表に表記しました6項目に沿って審査をいたしました。

結果、当該施設の指定管理者として十分な実績や、施設の管理運営において、設置目的の達成に向けた理解がなされており、指定管理者としての業務遂行能力を有していることから、指定管理者候補者に選定することといたしました。

以上で、補足説明を終わります。

よろしくお願いいたします。

○委員長（片桐文夫） 担当課の説明は終わりました。

議案第11号について、質疑がありましたらお願いいたします。

永井委員。

○委員（永井孝佳） 塚原緑地研究所になった場合、利用者の使い勝手は変わる部分はあるかを、お伺いいたします。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 使い勝手のほうは、今現在とは変わりません。むしろ、自主事業等を展開することで、使い勝手といいますか、よりよい施設となっていくよう努力していただけたらと思います。市としても、それを一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（片桐文夫） 永井委員。

○委員（永井孝佳） ありがとうございます。

例えば、フラダンスのイベントとか、あとは芸術品の展示など、1週間展示するとかそういう場合とかの料金など、今までと違う場合などあるのでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 使用料につきましては、現在の使用料手数料条例に沿った形で、その範囲内ということになりますので、使用料については変わらないです。

あとは、管理者によって、多少下がることもあるかもしれませんが、その範囲内ということだという予定でございます。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 永井委員。

○委員（永井孝佳） 1週間、例えば無料で使わせてもらったような団体もあったように感じるんですけども、そういったものも今後も可能なのでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 使用目的等に沿った形で、指定管理者のほうと協議をしていただく、その指定管理者もまた私どもに協議するというのもあると思うんですけども、そういった中で対応させていただきたいと思っております。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありませんか。

向後委員。

○委員（向後悦世） 県から移譲されない前は、管理料とか、県からいただいていたわけですが、そのときの大体の金額、また今度、民間委託するときの金額が一千百何十万円だったっけ、ちょっと数字を忘れてしまったけれども、その数字を正確に教えてください。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 今回の指定管理料の参考基準価格としては、上限として、1,594万2,000円になります。

県の管理していた時代というのは、申し訳ありません、ちょっと今の段階では分からないんですけども、今現在、市が管理している状態での金額でもよろしいでしょうか。であれば、今の段階で、令和4年度、令和5年度の平均で、約1,700万円前後になります。

○委員長（片桐文夫） 向後委員。

○委員（向後悦世） 物価も人件費も変わっていると思いますが、旧町が管理していたときは、七、八百万円ではなかったですかね。そのところ、分かれば。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 申し訳ございません。旧町時代の管理の金額等については、ごめんなさい、今ちょっとこちらで承知しておりませんので、申し訳ございません。

ただ、今現在必要な管理人の人件費であるとか、各施設の管理料、その辺を含めると、足し算をしますと、約1,700万円ということでございますので、よろしく願いいたします。

○委員長（片桐文夫） 向後委員。

○委員（向後悦世） 人件費や物価も値上がっていると思いますし、管理の内容もだんだん、施設も補修したとはいえ傷んできたり何かしている部分もあったりなんかすると思いますので、上手に管理運営をしていただけるように指導をよろしく願いしたいと思います。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 答弁はよろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

戸村委員。

○委員（戸村ひとみ） では、数点お願いします。

現在、エレベーターというのはもう使用可になったんですかね。もし、使用可になっているのであれば、そのエレベーターの補修にかかった金額と、あと、指定管理者の管理になったあとのそういった補修関係、どんなふうになるのか。大きいところはもちろん市がやらなければいけないと思うんですけども、どういうふうになるのかを教えてください。

それとあと、別表2で審査基準表を出していただいております。これでやっと審査ができるかなという感じなんですけど、この審査基準表の中にある項目で、1から6まであるんですけども、その中で、施設の管理に関する事項で、職員の配置計画、これが、配点が全部5点になっているんですけども、これは何で5点なのかなという、その根拠をお願いしたいと思います。

と言いますのも、今本当に、圧倒的に人員不足というか働き手不足ということが、どの業界でも起こっていると思います。そんな中で、あちらの管理にしても、人がいて初めてあそこが活用できることであって、運営体制とか配置計画、ここが5点という、配点5点というところが、今の世情、社会情勢、働き手不足のそういう状況の中でこの配点5点というのがどういうことなのかなというのと、それから、この基準表を出していただいて、配点のところまでは分かりました。

では、塚原さんのこの11人の審査員それぞれが10点持っていらして、11人で、それぞれのところが何点であったのかということをお願いいたします。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） では、先にエレベーターの件からお答え申し上げます。

現在、エレベーターは使用できません。まだ直っていません。エレベーターについては、ほぼ取り換えるような状態にしないと使えないという状況です。業者の話によると、エレベーターについては、受注生産ということになります。

ということで、今現在、もし今、すぐ発注したとしても2年近くかかるというふうに言われております。金額的にもかなり高額になりますので、予算をしっかりとやってからというところで、現在、予算編成中でございますので、これ以上のことは申し上げられないんですけども、一応、予算のところでは考えているというところでございます。

ということですので、指定管理、来年の春からというところになりますと、そこは当然間に合わないということになりますので、そこまでは市のほうでしっかり対応した中で、そのあと、お任せするという形に今、考えているところでございます。エレベーターについては、すみません。

基準表のところでは、施設の管理が配点の5点というところだったんですけども、我々とすれば、まず指定管理を受けようとする企業の経営方針であるとか、あとその施設を受け持ったあとの将来展望であるとか運営に関するところというのを、重点的に考えまして、

そちらのほうの配点を10点とさせていただいたということで、職員の配置について、特にそこを特段下げたというところではなくて、通常の配点というところで考えております。

職員配置については、今、うちのほうで普通に委託をしているんですけども、2名体制というところなんですけれども、そこについては、それを上回る人数を今のところ、想定しております。今度は管理するだけではなくて、自主事業等もごございますので、よりサービスをアップさせるという意味でも、その職員配置については、考慮しているところでございます。

委員がご心配されている人手不足というところも、十分そこも考慮した中で、塚原さんのほうも対応してくださるというところでございますので、よろしくお願いいたします。

あと、すみません。点数につきましては、議案質疑の際、申し上げたんですけども、こちら、それぞれの点数につきましては、総点数、総得点での公表というところでございますので、個々の点数につきましては、ご容赦いただければと思います。

よろしくお願いいたします。

1点ちょっと、漏れてました。指定管理後の修繕の関係でございます。一応、うちのほうは130万円というところで考えております。それ以上については、市のほうで対応するというところで考えておりますので、よろしくお願いいたします。失礼しました。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑は。

戸村委員。

○委員（戸村ひとみ） この配点が、10点、10点とかという、これを見せていただいただけでは、じゃ、一体、塚原さんが、どこが強くて、どこがこれからちょっと私たちは注視していかなければいけないのかなというようなことが分からないんですよ。

この審査委員さん、150点満点のうちのこの部門で、1なら1で、何点取ったかとかというのを委員会で公表することというのは、塚原さんの企業秘密とかそういうところに何か触れることなんですか、全く違うと思いますけれども。

私は、今までの経験上、指定管理者の指定のときの審査で、得点というんですか、配点ではなくて得点のほうも全部出してある資料で審査してきましたので、旭市ではないですよ。なので、ほかのところでは出せると思うんですけども、なぜ旭市では出せないのかなという、それは何かに障ることがあるんですか。何か支障ありますか、この配点まで出ている、配点は出してもらって、これ物すごく大まかなことじゃないですか、項目に関しても。これ、塚原さんの何かに差し支えるようなことがありますかね。塚原さん以外

でもですよ。会社の何かに、企業秘密的なもので何かありますか。何かがあるんでしたら、それを教えてください。どこの項目がそういうことに影響するのかということをお教えしてほしいです。

あと、エレベーターに関しましてなんですけれども、どれくらいもう止まっていますか。私の知る限りでは、相当の期間止まっていると思うんですけれども、その間になぜ手を打たなかったのかということをおちょっと教えてください。指定管理に出そうなんていう計画があるにもかかわらず、エレベーターの補修をしてくれなかった、全部を替えなければいけないというのだったら、それに対しての取り組みをなぜしてくれなかったのかなということをお、非常に私は不思議だと思うんですよ。

ご存じのように、あちら、エレベーターがないと高齢者は絶対に上まで上がれませんよ。あの階段、物すごい長い階段を上がっていかなければいけないわけですから、あの中のある階段にしても、らせんですから相当な階段数ございますし、それを今まで放っておいたということが、どういう理由で放っておいたのかなということがあるんですよ。

いわゆる質疑のときも、ほかの議員からも出ましたけれども、あそこの飯岡灯台というのが、本当に旭市の唯一無二といったらあれですけども、観光地であります。そこにさらにたくさんの方が来てほしいというようなことで指定管理にもするわけですし、いろいろなイベントとかを自主事業としてやってくださるような方を選ぼうということで、この指定管理の議案が上がってきているわけじゃないですか。

それが、その手前の段階で、市としてさらにたくさんの方に来てほしいというような、そういう考えということですか、それが全く見られない。エレベーターをそのままに置いて、そのところがどういう考えだったのかなということをお聞きたいです。もう指定管理者に渡される前に、発注は、私はするべきだと思います。補正でも何でも組んで、発注されるべきだと思います。どれだけの金額がかかるか分かりませんが、それもちょうど設計していただいて、指定管理としてやってくださいというその施設を渡す前に、きちんとしたことはやられるべきだと思いますよ、私、市として。それが市の姿勢だと思いますが、そのあたりいかがでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） まず、配点の詳細でございますけれども、こちらのほう、私のほう、お話しできないと言ったのが、情報公開条例の中の不開示情報ということで、

情報公開条例の第12条の第3号にございます、「法人その他の団体に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報であつて、公にすることにより、当該法人等又は当該事業を営む個人の競争上又は事業運営上の地位が損なわれると認められるもの。」というところに当たるという判断でございました。

その項目ごとの点数がもし明らかにされることで、これ以降の塚原さんがまた別の場所の指定管理等を受けるというような形でやった際に、こういう点が弱いとかいうところがあることが表に出ると、その事業運営上の支障になるだろうという判断でございました。これは、次点の業者についても同様の判断でございました。

あと、エレベーターについてですけれども、エレベーターについては、昨年度以前に関しては、都度都度、修繕は行っておりました。その都度、回復はしておりましたが、本年に入って、数十万円単位の修繕でやっておりました。

ただ今般、動かなくなった時点で業者に見てもらったところ、制御盤のほうの配線がかなり複雑な配線なんですけれども、そのどこがもうおかしいのかというところももう、特定が難しいと。それは、既にエレベーターがついて20年経つという中で、かなり老朽化しているというところで、特定することが結構難しいよという話でございました。

ただ、場当たりの復旧はできるけれども、もしその場当たりの修繕でまた動かした際に、お客様が中に入っているときに何か事が起きてしまったりとか、もし閉じ込めがあったりとか、誤作動で動いてしまったりとかした場合、お客様に大変危険な思いをさせてしまうというところと、もし復旧させるにしても、業者がこちらに来るまでにやはり数時間程度の時間がかかるというところも考えまして、私どものほうで運転をさせないという状況にしております。これは今年に入ってからのございます。

それから、エレベーターの修繕についてどういう方法がいいのかというところを、うちのほうで検討しました。というところで、最終的に示されたのが、ほぼ総取っかえのような状態にするのが一番いいというところでもございましたので、参考の見積り等を取ったところ、数千万円単位のお金がかかるというところでしたので、とても補正とかそういうもので対応するというところではなく、改めて、まず設計を行ってそれから工事を行うという形で、予定といたしますか、計画のほうをしているところでもございます。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員、よろしいですか。

戸村委員。

○委員（戸村ひとみ） 今、課長、答弁の中で、会社の、塚原さんの運営上の地位が損なわ

れるようなことになるというような、それは情報公開条例の中のあれに適用しませんよ、全然。こういう点が弱いというのが分かっていると、塚原さんの今後のためによくなって、ちょっと待ってくださいよ。私たちは、市民に不利益が被らないかどうかということ審議しなければいけないんですよ。塚原さんのための審議ではないですよ。塚原さんの今後の会社の運営のために私たちは審議をするんですか。全く違うじゃないですか。

こういう点が弱いというのが分かったら、それはそれで、私たちはそこを突っ込まなければいけないんじゃないですか。私たちそれは、議員の仕事ですよ。こんなところが弱いところの会社に、市民の血税を使った指定管理の管理のあれを任せていいのかということになるわけじゃないですか。言っていられちゃうことが、全く塚原さん側に立っていられちゃいます、課長。市民側ではないですよ。市民が不利益を被りますよ、こういう点が弱いというところを私たちが見逃すと。

人が配置できないというのを見逃してしまえば、あそこが閉まることにもなるわけですよ、今現在、2人でやっている。でもその2人も手当てができないとなったときに、そこは閉まってしまうわけですよ。これは全く、市民の不利益ですよ。ちょっと、課長が言っていられちゃうことは塚原さん側に立っていますね。

情報公開のあれには、抵触しません。この得点が何点かというのは、全く会社の情報ではないですよ。これ、見てください、項目1から6まで。ここの得点が何点だったかというのを会社の何かに引っかかりますか、何回も言っていますけれども。会社の情報として、何になりますか。物すごく当たり前のことを書いてあるだけではないですか。

ちょっと私、議事録、ちゃんと取ってあると思いますので、課長の答弁をきちんと議事録から精査させていただいて、これが本当に市民側に立っていない答弁、これは市側の答弁と受け止めます。

こういう点が弱いというのが分かったときに、塚原さんが次の指定管理か何かのときに、手を挙げられたときに、それが不利益になるというふうにおっしゃいました。きちんとこれ、議事録を取らせていただきますが、私たちは、市側もそうですけれども、当局側もそうですけれども、私たち議員は、市民の利益ですよ、追求するのは市民の利益。指定管理者の、業者の利益ではありません。

願わくば、本当にベストは、指定管理者の業者の利益と市民の利益が合致する、それで、運営がうまくいくという、そのところのために私たちは審議しているわけじゃないですか。納得できないです。

あと、エレベーターのことも。エレベーターのほうは、細かいところの修理というのをさんざんやってきたというようなことだと思うんですけども、そうしましたら、県から移管されたときに、条項の中にどういうのがあったのかというのをちょっと確認していただきたいんですけども、これはもう経年劣化やら何やらであったら、そのところでちょっと県に補償していただくようなことができないのかどうかというのを、ある程度の部分持っていただけないのかというのを確認します。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 先に、エレベーターの件をお答え申し上げます。

県から移管されたときは、移管される前に外周部とかいろんな場所、おかしいところを県と確認をしながら補修を行った上で移管を受けております。その時点で、エレベーターの不具合はございませんでした。

今回の件で、県のほうに問合せをさせていただきましたが、もう移管されているというところで、県のほうとして対応するのは難しいという返事でした。

それと、私のほうで先ほどちょっと言葉が足りなかったんですけども、劣っているというところではなくて、これは議案質疑のときもご回答させていただいたんですが、今回の採点、基準点というところで、10点配点のところについては6点、5点のところについては3点というところを基準点にして審査をしました。

全ての項目において基準点は上回っておりましたので、まずそこは塚原さんも、次点のほうの業者についても、これをクリアはしていたというところがございますので、弱いというところが適切かどうか分からないんですけども、全て基準点は超えていたというところがございますので、よろしく申し上げます。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員、よろしいですか。

ほかに質疑はございませんか。

宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） 先に確認させてください。

これは、審査をしたのは2者ですよ。全てが基準点に達していたということですので、細かい内容はともかくとして、これ、やはり戸村委員と私も同じなんですけれども、全て市民のための指定管理ですから、この業者、塚原緑地研究所を選定されたのはいいです。されたあと、市が一番期待をしているところというのはどの部分でしょうか。

○委員長（片桐文夫） 宮澤委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 今回、応募していただいた2者については、もちろん基準点を超えていたというところなんですけれども、指定管理者の候補者になった塚原緑地研究所につきましては、過去において、県内でも31か所程度の指定管理等の実績があるというところでもございます。

また、公園であるとかアウトドア施設とか、そういった運動施設といった多岐にわたる施設のほうを管理しているというような実績もございます。そういったところで、例えば、飲食であるとかイベントであるとか、プロモーションであるとかそういった経験もございますので、そういう豊富な運営ノウハウを有しているというところが、我々としては、市で足りないというところもあると思いますので、そういうところを、知恵を貸していただきたいなど、そういうところを期待したいなというふうに考えております。

よろしく申し上げます。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はございませんか。

向後委員。

○委員（向後悦世） すみません、もう1点だけ。

これから、展望館が一番にぎわう時期、初日の出、ああいうときはもう、事前から大みそかからだんだん人が集まってきて、もう深夜でも満杯状態になっているような状態だと思います。

そういう中で、指定管理者はそういう場合、常駐して残っているのか、また、時間から時間で帰ってしまうのか、ちょっとお尋ねしておきたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 例えば、初日の出で、初日の出を見る会とかといった、例えばそういうイベントを管理者のほうで自主事業として企画をすれば、当然、その時間はあくような形になると思います。

もちろん、これから観光の拠点として期待する施設でございますので、初日の出であるとか例えば夕日で写真を撮るとかという、そういういろんなイベントが想定されると思います。

そういったところは、条例に定める期間、時間を、例えば超えたとしても、その指定管

理者のほうで対応をするということで、そういう企画を期待したいなというふうに思っておりますし、我々としても要望していきたいと思っております。

○委員長（片桐文夫） よろしいですか。

向後委員。

○委員（向後悦世） ぜひ、そういう、うまく交渉を進めていただいて、地域発展のために、また旭市民がやっぱり雇用の場をあまり損なわないように、元々は展望館だって旭市民が管理や何かも頼まれて運営していたので、旭市の市民がなるだけ稼げるような指定管理者との交渉もよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。答弁はいいです。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありませんか。

井田委員。

○委員（井田 孝） 1点だけ、この選定経過についてお聞きしたいんですが、6月1日に募集要項の公表をされて、申請書の受付が6月28日というのは、この日までに申請書類一式をこの期間でそろえて提出するということがよろしいでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） そういふこととございます。その間に、6月12日に施設案内会を実施して、そこで希望する会社の皆さんにお集まりいただいて、またそこで説明を行ったりして現地を見ていただいて、それから書類を整えていただいたという形です。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） 6月12日から28日までの期間で現場説明会みたいなものを行って、この施設に対してうちはこういうふうなものをメインでやっていくとか、そのプロポーザル的なものを出すと思うんですが、一般的にこのくらいの期間、自分はちょっと短いと思うんですが、期間的には一般的にこういうスケジュール感でいくんでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対して答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 実はこの前に、令和5年度の12月にサウンディング型調査を行っております。そういうところで参加された事業者もおられます。ほぼ、多少入れ替わりはあるんですけども、ほぼイコールの状態、その時点から希望する、今回申請をした事業者については、そういうところは参加をされているというところで、そういう時

点からある程度検討されているのかなと思います。

ですから、我々のこのスケジュール感については、ほぼと言いますか、今までの例も参考にしながら設定をしましたので、このスケジュールでも可能であるという判断で、計画をいたしました。

○委員長（片桐文夫） いいですか。

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第 11 号の質疑を終わります。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） すみません。議案第 9 号のほうでの質疑に対しまして、ちょっと訂正のほうをさせていただきたいと思います。

初めに、井田委員から 1 回目の質疑の中で、私のほうで、厚生労働省から環境省へという回答をいたしました。厚生労働省は現在、下水道のほうに関しましては関係ございませんでした。

それから、向後委員の水質検査の項目数でございますが、回答の中で 34 項目とお答えしましたが、37 項目ですので、すみません、訂正のほうをお願いいたします。失礼いたしました。

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第 11 号の質疑を終わります。

議案の採決

○委員長（片桐文夫） これより、討論を省略して議案の採決をいたします。

議案第 9 号、旭市下水道条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第 9 号は原案のとおり可決されました。

議案第 11 号、指定管理者の指定について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 賛成多数。

よって、議案第 11 号は原案のとおり可決されました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） ご異議ないようですので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

以上で、本日の日程は終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦勞さまでした。

閉会 午前 10 時 45 分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 片 桐 文 夫

文教福祉常任委員会

令和6年12月17日（火曜日）

文教福祉常任委員会

令和6年12月17日（火曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項
- 議案第 7 号 旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 8 号 旭市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第13号 指定管理者の指定について
(旭市海上キャンプ場及び滝のさと自然公園)
- 議案第16号 専決処分の承認について
(旭市ひとり親家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例)

出席者（8名）

委員長	島田 恒	副委員長	伊藤 春美
委員	松木 源太郎	委員	飯嶋 正利
委員	宮内 保	委員	伊場 哲也
委員	常世田 正樹	副議長	遠藤 保明

欠席委員（なし）

傍聴議員（なし）

説明のため出席した者（20名）

教育長	向後 依明	環境課長	高根 浩司
保険年金課長	高野 久	健康づくり 課長	飯島 正寛
社会福祉課長	向後 利胤	子育て支援 課長	八馬 祥子
高齢者福祉 課長	椎名 隆	教育総務課長	向後 稔

生涯学習課長
その他担当
職員

江波戸 政 和
10名

スポーツ振興
課長

金 杉 高 春

事務局職員出席者

事務局長
副主幹

穴 澤 昭 和
菅 晃

事務局次長

黒 柳 雅 弘

開会 午前10時 0分

○委員長（島田 恒） 皆さんおはようございます。年末の大変お忙しい中、ご苦労さまです。大分最近寒くなってきております。それから、インフルエンザも千葉県が大分増えてきたということでもありますので、皆様方におかれましても、年の暮れに向けて十分健康のほうにはご留意いただきたいと思います。

私のほうからのご提案でございますけれども、実は、本委員会については、この後に視察を予定していなかったわけですけれども、伊藤春美副委員長のほうから、ふたば保育園のほうが大分建設が建屋のほうも進んでいまして、起工式以来改めて見ることもあまりないかと思っておりますので、この委員会が終わり次第、そちらのほうの見学というか、確認というか、行いたいというふうに思います。

車のほうは、事務局のほうでも用意しますけれども、自車で行きたいという方については、また言っていただければなというふうに思いますので、終わり次第、見学のほうをしたいと思っております。それについては、よろしく願いいたします。

それでは、ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

それでは、文教福祉常任委員会を開会いたします。

本日、遠藤副議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をよろしく願いいたします。

○副議長（遠藤保明） おはようございます。

委員の皆さん、大変ご苦労さまでございます。本日は付託されました補正予算を含む5議案について審査をしていただくことになっております。どうぞ慎重なる審議をお願いいたしまして、簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。それでは島田委員長、よろしく願いします。

○委員長（島田 恒） ありがとうございます。

議案の説明のために、教育長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して向後教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○教育長（向後依明） おはようございます。

本日は、文教福祉常任委員会の開催、大変お疲れさまでございます。日頃より、委員の皆様には、多方面にわたりご指導、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案は全部で5議案でございます。その内訳でございますが、まず予算関係が1議案で、議案第1号、令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち文教福祉常任委員会の所管事項、次に、条例関係が2議案で、議案第7号、旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について、議案第8号、旭市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について、次に指定管理者の指定についてが1議案で、議案第13号は旭市海上キャンプ場及び滝のさと自然公園について、最後に専決処分の承認についてが1議案で、議案第16号は旭市ひとり親家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例についてでございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方からの質疑に対し、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、何とぞ全議案可決・承認くださいますようお願い申し上げまして、挨拶といたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

○委員長（島田 恒） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（島田 恒） ただいまから、本委員会に付託されました5議案の審査を行います。

初めに、議案第1号中の所管事項について補足説明がありましたらお願いいたします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） すみません、着座にて失礼いたします。

議案第1号につきましては、本会議の補足説明でご説明したとおりでありますので、加えての説明はございません。よろしくをお願いいたします。

○委員長（島田 恒） それでは、議案第1号について質疑がありましたらお願いいたします。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 人件費は別にして、国庫支出金や県支出金、それから、県支出金の減額の中身。それと、9ページの、今度支出のほうですけれども、負担率の割合、それから、国庫補助金の補助率の割合、これらについての内容をどのぐらい変更するのか。また、年間どのぐらいの利用があるのか。

それから、20ページのところですけれども、児童手当関係、本会議で説明がありまし

たけれども、もう少し詳しく財源の変更の理由などを詳しくお知らせいただきたいと思
います。

○委員長（島田 恒） 松木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） それでは、まず、児童手当の事業の概要からご説明いた
します。

この事業は、次代を担う子どもの成長と発達に資するため、子を持つ世帯に子ども・子
育て支援法第9条、子どものための現金給付として児童手当を支給するものでございま
す。

すみません、20ページの歳出のほうから説明させていただいてもよろしいでしょうか。
児童手当の制度が今年10月に改正になりまして、12月支給分からなんですけれども、改
正の内容としましては、支給対象者が中学生から高校生年代に拡充、所得制限が撤廃、第
3子以降の加算のカウントの対象なんですけれども、今まで第3子を高校生年代のお子さ
んの範囲内でカウントしていたものを、大学生年代までに拡大になりました。加えて、第
3子の手当月額が一律3万円に増額されております。それで、支給回数が今までは年3回
だったものが年6回に、2か月に1回の支給となっております。それで、今回の……

（「20ページから、出るほうから」の声あり）

○子育て支援課長（八馬祥子） 出るほうから。出るほうから入るほう。

20ページの640万5,000円なんですけれども、これは昨年の予算編成時には、今言っ
た制度改正の大体の方針は示されていたんですけれども、第3子以降の算定対象がどうな
るかというのが検討中で決まっていなかったため、今回の拡充で先ほど申し上げましたと
おり、高校生年代だったものが大学生年代までとなったため、当初予算ではその部分を見
込んでおりませんでしたので、その部分を増額補正としまして、拡充後の積算額と当初予
算の差額を今回計上させていただきました。それが640万5,000円でございます。

あと歳入のほうなんですけれども、9ページですかね。今回の制度改正に伴いまして、
負担割合が大分変更になりまして、国の負担割合が増えて、県と市の負担割合が減額にな
っております。

それで、国の負担割合なんですけれども、被用者の3歳未満が45分の37から10分の
10、非被用者が15分の10から15分の13、3歳以上が9分の6から9分の7、あと県と
市の負担割合が被用者の3歳未満が45分の4からなしになっておりまして、非被用者の
3歳未満が30分の5から30分の2、3歳以上が18分の3から18分の2ということで、

最初に申し上げたとおり、国の負担割合が大分増えて、県と市の負担割合が減額となっております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 松木委員。

○委員（松木源太郎） そうしますと、20 ページの歳出のところでもって、国庫支出金と県の支出金と一般財源の支出金についての相殺がされていますよね。そうすると、今年のかどうか、令和6年度の予定では、全体でもって何人ぐらいになって、財源の割合がこういう形なんですけれども、それについてはどのような結果になるんですか。

つまり、国が5,700万円補正でもって増やして、この負担率のところには10分の10から3分の2までありますよね、国の負担の割合がね。それから、その下の民生費の国庫補助分、それからその次のページが県になりますよね。そこら辺のところを、ちょっと分かりやすく、何か表か何かないんですかね。私これ見てよく分からないんですよ。

次の10ページのところが今度県の割合の支出金が2,100万円減らせるということで、それは6分の1から45分の4までのところということで、これももう少し素人でも分かるような形のものを後でいいですから、委員会終わってから議会終わるまでに、ちょっと分かりやすいものを作っていたらありがたいなと思うんですけれども、補正関係ではそれだけです。

聞きたいのは、以上です。

○委員長（島田 恒） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） では、今、要望がございました分かりやすい資料については、後日提出をさせていただきます。

今回の予算、何人見込んだかということなんですけれども、すみません、延べ人数になってしまうんですが、7万9,895人分を全体で見込んでございます。すみません、年度の全体では。

（「年度全体だね」の声あり）

○子育て支援課長（八馬祥子） はい。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑ありませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田 恒） 見やすい表のほうについてはよろしくお願ひします。

そのほか特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第7号について補足説明がありましたらお願いいたします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 議案第7号につきましても、本会議において補足説明を申し上げたとおりでありますので、加えての説明はございません。よろしくをお願いいたします。

○委員長（島田 恒） それでは、議案第7号について質疑がありましたらお願いいたします。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 名前の変更ですけれども、ふたば保育所という形は、どういうところでどういう形で決まったんですか。

○委員長（島田 恒） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） まず、公募をいたしまして、市民の方からお名前の案を募集いたしました。募集期間は7月1日から7月31日までの1か月で行いました。

あと、名称の選考なんですけれども、保護者や地区の代表者の方8名から成る選考会議というものを8月に2回開催いたしまして、応募作品の中から選考いたしました。

以上でございます。

○委員長（島田 恒） よろしいですか。

飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） 松木委員、今そういうふうな話で、実は私は命名委員会のメンバーでありまして、保育所後援会連絡協議会の会長をさせていただいているということで、この命名委員会のほうも会長をさせていただきました。

実はふたば保育所ということで幾つか候補が挙がって、1票差だったのかなと思います。たしか、2番目はアジサイだったかという形で、たしか1票差だったのかなというふうに思っております。

今回、質疑ですけれども、命名のということで私はそれで結構だと思うんですが、今第2弾のほうも少しずつ始まっているということで、計画のほうは示されているんですけれども、今後の予定、また、たしか今度出生率のほうが大分改善されたということで、たしか県内第4位になったということも聞いております。

それに伴っての計画変更、例えば、次に予定されている矢指、富浦なんていうのは、両方とも合わせても実は100人いかないんですよ。それで、今後の見込みも含めて計画の

変更はないのか、お聞きできる範囲で結構でございます。よろしくお願いいたします。

(発言する人あり)

○委員長（島田 恒） 今、4位という発言がありました。3位ということでご訂正願いたいと思います。

○委員（飯嶋正利） 3位でお願いします。

○委員長（島田 恒） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 今後のスケジュールというのは、今の統合保育所のスケジュールではなくて、全体の再編のスケジュールですか。

今、統合保育所を建設しておりまして、令和7年度の4月1日から新しいふたば保育所を開所いたします。その次なんですけれども、日の出、富浦を予定しておりまして、これが一応市のほうでつくりました保育所再編計画では、令和9年度から開始の予定とされておりまして、昨年度、保護者の方のアンケート調査ですとか、今年度地域の方にご説明をいたしまして、反対意見もございませんし、なるべく早く統合を進めてほしいという意見もございましたので、1年前倒しにいたしまして、来年度工事を行って、令和8年から開始の予定となっております。

場所なんですけれども、日の出と富浦ということで、日の出保育所のほうが建築年が平成元年度に建築だったと思うんですけれども、大分日の出保育所のほうが新しいので、そちらを改修して使用するというので、保護者の皆様にはご理解をいただいております。なので、来年度日の出保育所を改修いたしまして、令和8年度から日の出保育所で新しく富浦・日の出の統合の保育所を開始するという予定になっております。

その後は、一応計画の中では2か所ずつ統合していくという計画になっておりまして、その後は第一と第三が令和11年度から、まんざいと古城が令和12年度から、共和と池の端が令和14年度からという形で計画にはなっておりますが、すみません、その先のことについてはまだ詳細は決まっておきませんので、現時点でお話しできるのは今申し上げたとおりでございます。

○委員長（島田 恒） 飯嶋委員。

○委員（飯嶋正利） ありがとうございます。それと、今名前のことも一つ挙がっているんですが、この間の会議で私も思ったんですが、今後のことも含めて、やっぱりいろいろな名前が出るんです。例えばあさピーだとか、それでいいのかという形のものもいろいろ出るわけですよ。やっぱりある程度の統一性みたいなというのは必要ではないのかなとい

うふうに思うんですが、そこも含めて課長どうでしょう。

公募で、例えば委員にも非常に細かい方、積極的な方いるんで、例えば英語の名前だみたいなのもつけている方もいる、そっちを推す方もいらっしゃるんでね。その辺のところ課長、やっぱりそれはあくまでも公募という形で今後とも進めるんでしょうか。

○委員長（島田 恒） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 今後のことにつきましては、すみません、公募にするかどうかはまだはっきり決まっておきませんので、地域の方にご説明をするときにご意見いただいたりして決めていきたいと思うんですけれども、統一性をということでしたが、今回、60作品の応募をいただきました。先ほど議長がおっしゃったように、本当にいろいろなお名前の提案がございましたが、やはり話し合いをしていく中で、今回ふたばに決まった理由というのが、保護者の方から、小さい子でも分かりやすいように平仮名3文字ぐらいがいいよねというご意見がございました。

また、ふたばに込められた人の幼少期の頃を意味するですとか、小さな子どもたちをふたばにたとえたですとか、あと二つの保育所が統合するのでそれをふたばにたとえたというような、応募された方の思いに共感したということで、今お話ししたようにいろいろなお名前が挙がってきて、決まっていく中で自然とその保育所に合ったお名前になるのではないかなと私は考えております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 今、課長のほうから「議長から」というご発言ありましたけれども、委員という立場でございますので、飯嶋委員ということでよろしく願いいたしたいと思います。

ほかに質疑ありませんか。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 私も賛成なんですけれども、前に一般質問だったと思うんですけれども、あれの入り口の問題について、通園が始まるまでに、あそこは給食と、それから教育会館と三つが一緒になる。で、そこを改善するという答弁が執行部にあったんですけれども、それについては今どうなっているんですか。ちょっと、もし課長知っていれば、知らなければ担当課にまた私聞きに行きますけれども、よろしくお願いします。

○委員長（島田 恒） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） そのときのこちらの答弁なんですけれども、検討するとい

うような形で答弁をしたというふうに聞いておりました、ただ、その後、担当課のほうでいろいろ動いてくれたんですけれども、現在のところは今のままということになっております。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑ありませんか。

伊場委員。

○委員（伊場哲也） 今の松木委員と同じというか関連質問で、あれではなかったですかね、安全面の確保ってたしか井田議員が質問したと思いますけれども、要は今言ったように、3施設単純にあるじゃないですか。ですから、ずっと入り口から入ってきて一方通行になるようにというような話もあったかと思いますが、あそこはやはり安全面を管理したほうがよろしいのではないかというふうに思いますので、どうでしょう。引き続き検討をお願いできないものか、お尋ねいたします。

○委員長（島田 恒） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） もちろん、引き続き検討していきます。安全面につきましてはカーブミラーをどこにどう設置するですとか、十分出入口のところを気をつける、担当課と協議をして、安全面には配慮して、中の通行なんですけれども、保護者の方、あとご利用される方に協力を求めて、安全に登退所できるように配慮していきたいと思っております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 本議案については、ふたば保育所の名称についてでありますので、ご意見ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかに質疑ありませんか。

伊場委員。

○委員（伊場哲也） 失礼しました。名称で質疑してしまいました。

今度は、現状、課長見届けて、ここは旭市の今後の保育所を再編等々考えると、ふたば保育所はすばらしいよと、わくわくどきどききらきら輝くような、そういう推し、セールスポイント、ここを、すばらしい点を教えていただけますかね。

○委員長（島田 恒） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） わくわくどきどきということで……

（「きらきら」の声あり）

○子育て支援課長（八馬祥子） きらきら、すみません。

まず、建物を平家にしておりました、全体的に日光ですとか、風の通りがよくなるよう

にですとか、そういったところに配慮されております。子どもたちが安全に気持ちよい環境で保育を受けることができるように、園庭には複合遊具を設置して、外でも元気に遊べるようになっております。今日、視察に行っていただけということですので、ぜひ現場で確認をしていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 現場視察ね。ああ本当だ、よく日光明るくていいわとか、風通しもいいぞと、ありがとうございました。ぜひ孫を預けたいなど、ありがとうございました。

以上です。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑ありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（島田 恒） 特にないようですので、議案第7号の質疑を終わります。

続いて、議案第8号について補足説明がありましたらお願いいたします。

教育総務課長。

○教育総務課長（向後 稔） 議案第8号につきましては、本会議において補足説明を申し上げたとおりでありますので、加えての説明はございません。よろしくお願いいたします。

○委員長（島田 恒） それでは議案第8号について質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（島田 恒） よろしいですか。

特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

続いて、議案第13号について補足説明がありましたらお願いいたします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 着座にて失礼いたします。

議案第13号、指定管理者の指定について補足説明を申し上げます。本日資料のほうを配付させていただいております。よろしくお願いいたします。

今回、指定管理者基準表についてということでご説明をさせていただきます。

指定管理者候補者の選定につきましては応募が1団体であったため、旭市指定管理者候補者選定委員会において、提出された事業計画書等の資料と当日のプレゼンテーションを基に、旭市公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例第4条に定める指定管理者の候補者の選定に係る基準に基づき、本日晒しました6項目25の評価基準等を設定

し、総合的に評価し、審査を行っております。

結果、当該施設の指定管理者として十分な実績や施設の管理運営において設置目的の達成に向けた理解がなされており、指定管理者としての業務遂行能力を有していると判断したことから、指定管理者候補者に選定することといたしました。

なお、評価の点数につきましては、設定しました各評価項目全てにおいて基準点の6割以上となっております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 担当課の説明が終わりました。

議案第13号について質疑がありましたらお願いいたします。

松木委員。

○委員（松木源太郎） まず、参考資料に満点が1,100点で得点が829.6点となっておりますけれども、これの内訳を教えてください。旭市海上キャンプ場及び滝のさと自然公園指定管理者候補者選定審査基準表というのがありますよね。これはホームページに出ていましたけれども、これをもって、各項目がまず0.6、いわゆる60%以上、25項目あってそれをトータルしていくと829.6点になるんでしょうけれども、この中身について教えてください。

それで、評価については優れているが5点、満足できるが4点、平均的が3点、物足りなさを感じるが2点、劣っている点が零点で、この一覧表をまず出していただきたいと思います。

それで、もう一つ聞きたいのは、キャンプ場のほうは大体その施設もあって分かるんですけれども、片方、もう一つのほうの滝のさと自然公園というのは、実際に私はちょっと行ったことがないんで教えてもらいたいんですけれども、キャンプ場は知っているんですけれども、あそこにはどういう施設があるんですか。

つまり一般質問で、何かあそこに展望台を作れとか、それはキャンプ場に作れというのか分かりませんが、それから市民農園があったりとか、そういうようなこと、そういう管理は具体的にはどういうふうに行っているのか。

それから、この両施設は、県からどういう形でもって旭市に引き継がれたものなのか、この大きく三つの点についてご回答いただきたいと思います。

○委員長（島田 恒） 松木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） それでは最初に、得点の関係だと思えます。得点につきましては、1,100点満点というところで829.6点ということ公表させていただいております。個々の点数等につきましては公表ができないんですけれども、旭市の公開条例におきまして、不開示の条項に該当するということで、詳細の細かい点につきましては公開できないということで考えております。個々取ってみても60%以上、基準点を上回っているというところですので、ご理解をいただければと思います。

あと、滝のさと公園の施設というところでちょっとお待ちください。失礼しました、滝のさと公園のほうですが、まず、面積としましては3,332平米あります。約3町歩ちょっとあります。

施設ですが、あずまやでしたり、ベンチでしたり、テーブルのセットでしたり、あと遊具というところでパーゴラというのがあります。

（発言する人あり）

○生涯学習課長（江波戸政和） 失礼しました。休養施設です、パーゴラです。遊具としては、ザイルクライミングという遊具が一つあります。あと駐車場のほうですけれども、98台の収容があります。あと野外のトイレ、水飲み、手洗い場等がありまして、全面的な芝生広場となっております、サッカーができたりだとか、グラウンドゴルフ等ができたりだとか、あと一部キャンプの施設として、限定して使っている施設があります。

県からの譲渡ということですが、海上キャンプ場につきましては、平成21年に県のほうから譲渡を受けている施設でありますけれども、滝のさと自然公園につきましては、旭市が設置している公園となっております。管理もありました。

（発言する人あり）

○生涯学習課長（江波戸政和） 管理ということですかね。滝のさと自然公園の管理につきましては、失礼しました。海上キャンプ場と滝のさと自然公園につきましては、令和2年から指定管理者が同一で管理をさせてもらっております。

○委員長（島田 恒） 体験農園もそうではないの。体験農園。

○生涯学習課長（江波戸政和） 一般質問等で体験農園とありましたが、体験農園というのが市民農園のことだと思うんですけれども、キャンプ場から東側に約1キロメートルぐらい離れたところにあるんですが、そちらのほうの管理につきましては、同じ市で設置しているんですが、実際には農水産課のほうで管理をさせていただいております、たまたま、業務の委託をキャンプ場の指定管理者の業者がやっているというところになっております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 松木委員。

○委員（松木源太郎） まず、滝のさと自然公園なんですけれども、3,300 平米なの、3,300 平米。それで、そんなにいっぱい施設があるんですか。つまりそれは、もともと旭市のものだったところなんですか。

それから、キャンプ場は確かに県のやつが旭市に引き継がれたと思うんですけれども、それを一体でもって、どうして指定管理にしているんでしょうか。指定管理料が年間、これを見ると 1,980 万円ですよ。それで利用料金が約 300 万円。自主事業があって、支出のほうがかなり増えている。市が実際に支出している金額というのは、今まで幾らなんですか。令和 4 年、令和 5 年まで、令和 6 年も含めて。令和 6 年はまだ決まらないけれども、幾らこの指定管理者にお金を払っているんですか。ちょっとそれだけ聞きたい。

○委員長（島田 恒） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 滝のさと自然公園につきましては、令和 2 年からキャンプ場と一緒に指定管理のほうに出させていただいております。キャンプ場を指定管理にするに当たり、滝のさと自然公園もあると、より利用者に、なんというか、メリットではないんですけれども、大自然に触れながらキャンプ体験なんかもできるというところで、令和 2 年から指定管理に出させていただいております。それ以前は、都市課というところで、公園のほうとして管理をさせてもらっておりました。これは旭市が設置した公園となっております。

あと、さっきの指定管理者の金額だと思うんですけれども、令和 2 年から令和 6 年、今年度まで 5 年間指定管理第 3 期目となりますが、やらせてもらっておりまして、年間市からの支出としましては 1,980 万円を毎年支出させていただいております。ですから合計 9,900 万円ということになります。

以上です。

○委員長（島田 恒） 松木委員。

○委員（松木源太郎） まず最初からいきますけれども、何で点数が公開できないんですか。昨日のあれでもできないというか、飯岡の灯台のところも言っていましたけれども、キャンプ場の場合にはかなり細かく、どこがどうだってちゃんと規定まであるじゃないですか。それやったら、何かそこがあるんですか。

つまり今回、あなた方の資料の中に 1,100 点のうち 829.6 点というんだから、これはど

ういうところがちょっと足りなくて、どういうところがよくできているというのは、評価するのは我々だって、それでもって見たいわけですよ。議会の議員としても。なぜ公開できないのか。

旭市だけが公開しないってことになっているんですか。それとも、ほかのところでも指定管理制度やるところは、そういう点数は公開しないようにしているんですか。私はそうではないのは知っているんですけども、なぜできないのか。

それから、指定管理料を含めて、そこから上がる利用料その他は全部指定管理者の収入になるんですけども、そうすると、令和5年と令和4年がホームページの中にいろいろと書いてあって、令和5年度の場合には指定管理料が1,980万円で、利用料収入が296万1,000円、これは指定管理者がもらっていいっていいっているんですね。それから自主事業が22万円で、その他合計、収入合計が2,300万円余。支出も2,398万円、それで、年間の支払う指定管理料が2,900万円なんですか。そうすると700万円近くの金はどういう理由でもって払っているんですか。その点お聞かせください。

○委員長（島田 恒） 松木委員の質疑に対して答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 最初に情報公開の関係、個々の得点の話だと思います。そちらにつきましては、旭市の情報公開条例の第12条の3号にありまして、「法人その他の団体に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報であって、公にすることにより、当該法人等又は当該事業を営む個人の競争上又は事業運営上の地位が損なわれると認められるもの。」ということによりまして、不開示情報に当たるということで、個々の評価の点数につきましては、不開示とさせていただきます。

あと指定管理料の関係で、約2,700万円の支出があつてという話だったと思います。あくまで市から指定管理料で払うのは1,980万円でありまして、今お話がありました利用料の290万円ちょいですとか、その他の収入を充てて事業費ということにしておりますので、最終的に旭市から出ているのは年間1,980万円のみとなっております。

あとすみません、2回目になりました公表の関係で、他市でもやっていると思うけれどもというところのお話があつたと思います。現在、旭市におきましては、情報公開条例に基づいて評価しておりまして、仮に他市でもあるというお話であつた件につきましては、当初のガイドライン等でそういうものを示すというところで示されているのかなというところで理解をしております。

現在、旭市ではそういう状況ではないというところで情報公開条例に基づいて公表させていただきますというので、理解いただければと思います。

以上です。

○委員長（島田 恒） 松木委員。

○委員（松木源太郎） 情報公開までは分かりましたけれども、お金の問題ですけれども、市が払うのはあくまでも1,980万円だけですか。分かりました。いいです。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑ありませんか。

常世田委員。

○委員（常世田正樹） 一つ確認なんですけれども、滝のさと自然公園の面積、課長さっき3町歩で3,300……

（発言する人あり）

○委員（常世田正樹） 3万3,000平米ですよ。そうですよね。3反歩になってしまいますからね。確認できました。

○委員長（島田 恒） よろしいですか。答弁お願いします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） すみません。滝のさと自然公園の面積ですが3万3,320平米です、すみません。

（発言する人あり）

○生涯学習課長（江波戸政和） キャンプ場が1万5,790平米となっております。

もう一つ、先ほどの関連なんですけれども、先ほど情報公開の中で、12条の3号ということで企業の話をしていただいたんですが、個人の得点の公表につきましては、第5号と6号等で、やはり表されておまして、公表することによって素直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるというところで、こちら、あと最終的には特定の者に不当に利益を与え、もしくは不利益を及ぼすおそれがあるものというところで不開示となっていることで、ご理解をいただければと思います。すみません、失礼しました。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑ありませんか。

伊場委員。

○委員（伊場哲也） そもそも、指定管理制度って何だ、なぜその制度を利活用するのか、指定管理制度を利用するとういった市民にメリットがありますよ。3点お聞かせください

い。

○委員長（島田 恒） 質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） なぜ指定管理制度を導入するのかというところだったと思います。

まず、指定管理者制度を導入するに当たりましては、単に経費の節減を図るものではないというところで、民間事業者の持っておりますノウハウですとかを活用することによりまして、施設利用の利便性の向上、住民サービスの向上を最大限に引き出して施設の設置目的を効果的に達成することを目的としてこれまでも取り組んでおります。

あと、メリット、デメリットではないですけども、メリットとしましては、今お話ししたように、導入することによりまして利用者の向上も見込めたりですとか、サービスも見込めるというところが、大きなところになるかと思われまして。

もう一つは、指定管理者を導入することによって、これはこちら側の話になってしまうんですけども、行政負担の軽減なども図れるというところが一つのメリットになるかなと思います。

（発言する人あり）

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） ごめんなさい。今ちょっと目で合図したもので、ちょっと対応してしまっただんですけども、失礼しました。委員長、よろしいですか。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 答弁いただいたかと思っておりますけれども。3点について、質疑したことに対して答弁いただいたかと思っております。

次の質疑ですけども、立て続けによろしいんですか。

○委員長（島田 恒） 伊場委員どうぞ。

○委員（伊場哲也） この指定管理制度を活用する場合については、当然、資料で提出いただいているんですけども、6月14日に公表で28日に説明会、そして受付期間を経て、8月28日に審査選定され、塚原緑地研究所に候補者として決まったんですよね。選定委員会が決められたんですよね。

そこで、選定委員会の設置要綱ってあるじゃないですか、旭市に。旭市指定管理者候補者選定委員会設置要綱、10人ですか、副市長をトップに財政課長、行政改革推進課長、

企画政策課長、総務課長。市民を代表する人というのは何人いらっしゃったんですか。あわせて、学識経験者、選定委員会に参加された人というのは。基準の点数の公表ではなくて、選定委員会に関わった方の内容について質疑を求めています。

○委員長（島田 恒） 伊場委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） ちょっとすぐ今、申し訳ないです。

失礼しました。今お話ありましたように委員長が副市長で、市の職員が5名となっております。その他が市民を代表する方というところで3名、あと学識経験者というところで2名、委員長を入れて合計11名というところで審査をさせていただいております。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 合計11名ですか。10名ではなくて。

○委員長（島田 恒） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 委員長を入れまして、合計11名となっております。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 今回、議案第13号を議決させていただくに当たって、提出いただいた資料を振り返って、私見しました。昨日も傍聴で参加させていただき、これいい加減に賛成、賛成、賛成というわけにいかないんですよね。やはり市民の意見を代表させて、質疑・質問させていただいたり、議決させていただくという立場を考えますと、いいかげんな議決ということはできないんですね。審査・審議。

ですので、言いたいことは、最低、審査・審議を慎重審議していただくという、申し訳ないですけども、そういうことであるならば、より審査・審議に役立つような明快な説明というのは口頭でありましたけれども、思いやりある理解しやすいような資料提出というものがいただけないものかと、情報開示の話も出ておりますけれどもね。

なぜかといいますと、提出された事業計画書はこういうものでした、一つ、そして提出された事業計画書に伴う資料はこういうものでした、二つ、最終的に指定管理者として業務遂行能力が確かにあるというふうに断言できたので、候補者として決定しましたと、それを議員の皆さん審議してくださいよということですよ。中身が何も分からないので、本当に慎重審議、審査できるかどうかということを自問自答させていただいたんです。

定例会の一番最後に電子表決でもってやりますね。これやっぱりよく自分自身で理解納得をした上で結論を出させていただいているんです。これは、本日は委員会の場ですか

ら、分からないことを質疑させていただき、十分自分自身の理解の一助にしようということで質疑させていただいているんですけども、そういう中で、一つは公開条例に沿った情報公開ができないと、いや、そんなことはないです、これ後でまた質疑させていただきますけれども、そういう意味で資料、情報が足りないよということを付け加えて、なおかつ、これ質疑ですけども、上永井公園及び旭市飯岡刑部岬の展望館の指定管理業務に関することに対しては、商工観光課ではサウンディング調査をされていますね。こちら海上のほうは、なぜサウンディング調査をされなかったのかという、その理由をお聞かせ願えますか。委員長お願いします。

○委員長（島田 恒） 伊場委員の質疑に対して答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） サウンディング調査の関係でよろしいですか。サウンディング調査なんですけど、令和6年1月10日にサウンディング調査の実施要項の公表をしております。

しておりまして、1月23日に現地見学会、説明会というものを実施しておりまして、3月12日にサウンディングの実施をしております。

ですので、キャンプ場等につきましても、一応サウンディングのほうは実施をさせてもらっております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 的な、審査の決定に至る経過についての補足説明的な資料があれば、これは質疑しなくても済むわけじゃないですか。そういった意味で、資料提示、可能な範囲内でできるものを理解の手助けになるような資料提示が必要ではなかろうかということで、ご理解いただければと思いますね。

これまでの指定管理者というのは、塚原緑地研究所でよろしゅうございますかという質疑です。委員長お願いします。

○委員長（島田 恒） 伊場委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） これは塚原緑地研究所、これまでというのは、海上キャンプ場が指定管理を導入してからというところでよろしいでしょうか。海上キャンプ場が旭市に移管されまして、指定管理を導入したのは平成26年からになります。

平成 26 年から 3 期連続で塚原緑地研究所が指定管理者としてやっていただいております。

以上です。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑ありませんか。

伊場委員。

○委員（伊場哲也） それでは、これも時間に限りがありますので、課長、後ほどで結構ですので、ペーパーベースでね。ペーパーベース、分かりやすい資料を提出を求めますよ。指定の概要、施設の概要ありますよね。指定期間を示されています。指定候補者の、指定管理者の候補の概要、指定の経緯、応募資格とか応募状況とか選定方法、審査基準は本日示していただきました。審査結果については、より具体的に、選定理由については、提出された事業計画書はこういうものであった資料で、業務遂行のために確かにあるよと、そこで指定管理業者として適切だと、そういうふうを選定をしたとありますけれども、これは何に基づいて、今言わせていただいているかといいますと、過去、私議員になりましてから頂いた指定管理者の候補者の選定結果についてということで、体育振興課からね。要は総合体育館等々の施設の指定管理者を指定するよといったときに、丁寧に頂いた資料なんです。それに基づいて今言わせていただいているんですよ。

ところが、海上の今回議案第 13 号につきましては、私、市議になって初めてのいわゆる審査・審議に当たるわけですので、以前頂いた体育振興課が出された、こういった具体的に分かりやすい、だから、コナミスポーツにとかってそれが分かるような記述になっているんですね。

ですから、そういったスタイルで横の連携を取っていただき、生涯学習課の今回の海上の議案第 13 号についても、ましてや、もう既に 3 期目になるということで、過去の経験があるわけですので、市サイドとしても、十分この指定管理業者についての内容はお分かりになられると思うので、そういったものを出せないかといったことで、リクエストと併せて質疑をさせていただいているんだと、そこはよろしいですかね。委員長確認願います。

○委員長（島田 恒） 資料の提出ということについては、委員個人というよりは、この委員会の中で求めるということになるかと思えますけれども、出せる範囲というんですかね、そこについて、今聞いた範囲の中で出せるものについては出していただければと思いますけれども、その点についてはいかがでしょうか。議員の皆さん。

（「お願いします」の声あり）

○委員長（島田 恒） 全てどこまでというのは、私も判断できない部分はありますけれども、生涯学習課長、その辺いかがでしょうか。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 資料のほうにつきましては少し精査をさせていただきたいと思っております。

今回提出議案等で評価基準等は出させてもらっております。あと、議会の議案の参考資料ということで、追加資料等も参考資料をつけさせていただいておりました。それで、全然不十分だよということであろうかと思しますので、ちょっとその件につきましては、少し検討していますでしょうか、確認させていただきながらやらせてもらいたいと思います。

○委員長（島田 恒） それでよろしゅうございましょう。よろしいですか。

（「ぜひお願いします」の声あり）

○委員長（島田 恒） 会議は途中でありますけれども、11時15分まで休憩を取りたいと思います。

休憩 午前11時 3分

再開 午前11時15分

○委員長（島田 恒） おそろいのようなので、休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

ほかに質疑はありませんか。

伊場委員。

○委員（伊場哲也） 情報公開に関する事で質疑をさせていただきます。審査基準表が今日示されました。これをいわゆる基準の結果を公表することは、条例に違反するという話がありましたけれども、お聞きしたいのは、一つは指定管理者選定に関わる情報公開運用指針あるいは運用規定なるものは、旭市にはありましたっけということをお聞きしたいのです。どうでしょう。

○委員長（島田 恒） 伊場委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 指定管理者制度の導入に係る基本方針ということでよろしいでしょうか。

（「違います。情報公開です」の声あり）

○生涯学習課長（江波戸政和） 失礼しました。市では、旭市情報公開条例というのを定めておりますので、それに基づいて先ほど発言をさせていただいております。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） そうすると、指定管理者の選定に関わって、指定管理者の情報等に関する運用指針というのはまずはないということで判断してよろしいですかね。運用指針はない、しかしながら情報公開条例に基づいて判断していますよと、そういう捉え方ですか。まず運用指針というものがあるのかないのか、そこを委員長、ご確認ください。

○委員長（島田 恒） 伊場委員の質疑に対し、答弁を求めます。

指針、要綱、要領様々なものがあると思いますが、今の質疑については指針というものはあるかないかということですので、答弁のほうを願いたいと思います。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） すみません。指定管理者制度導入に係る基本方針、ガイドラインということなのかと思います。そちらの中で、指定管理者制度における情報公開というところで、指定管理者の選定過程や公募団体の評価などを公開することは、行政手続及び意思形成過程の透明性を確保するとともに、市民に説明責任を果たすということから、旭市情報公開条例に基づいて公表をさせていただいております。

（「委員長、指針はないということでよろしいですか」の声あり）

○委員長（島田 恒） ちょっとお待ちください。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 指定管理者制度導入に係る基本方針はあります。

○委員長（島田 恒） 指針というものはないけれども、方針というものに基づいて行っているってことですね。

○生涯学習課長（江波戸政和） そうですね、基本方針に基づいて、その中で情報公開について明示をさせていただいております。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 繰り返します。導入に関する指針がなければ導入なんかできないんですよ、そもそも。だから、指定管理者選定に関わる導入の指針はある、これは当たり前。

さあ、導入に際して気をつけなければいけないのは情報公開というものがあるであろうと、情報公開に関わる運用指針はあるかということ。ないということによろしいですね。もう一度確認願います。

○委員長（島田 恒） 伊場委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） すみません。繰り返してなってしまいます。導入に係る基本方針の中で、指定管理者制度における情報公開ということで、それに基づいて公開をさせていただいております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 質疑の中の一部意見になりますけれども、運用指針がないとやっぱり駄目だと思います。ですから、昨日と今日、こういうことになるんだということをお伝えしますね。

まず一つ目、指定管理者選定等に関わる情報公開運用指針の目的とありますので、よく横断的に各課で情報交換して、指針の目的、これを勉強なさってください。

2点目、指定管理者選定に関わる情報公開、運用指針の法的根拠。3点言いますね。地方自治法の第244条の2、2点目、情報公開法、行政機関の保有する情報の公開に関する法律、3点目、地方自治法第96条、契約に関する規定、この3点をセットにして指定管理者選定等に関わる情報公開運用指針、これでございます。後ほどご確認ください。

その指針に基づいて、三重県ですとか、県のほうですね。あるいは市で考えますと、青森県弘前市、これが運用に関する指針をきちっと、相当参考になろうかと思っておりますので、ご確認ください。

さて、旭市情報公開条例の概要と法的根拠ということで委員長、質疑させていただきます。なぜこの審査基準表が示されたけれども、中身については公表できないんだと、第12条の3号ですか。6項目、25評価内容、どれが公開条例第12条3号に該当するのかわかったところは、お示ししていただくということに時間が相当かかると思いますので、この点とこの点とこの点が情報公開条例第12条3号に引っかかるんだよと、だから、情報公開できないんだよといったことも、しっかり分かりやすくご説明いただきたいと。

開示できない公文書等々、情報公開条例第12条、公文書の開示義務というのがございました。全部が全部開示できないわけではありませんよね。ということをお委員長、課長に

確認願えますか。

- 委員長（島田 恒） 伊場委員、情報公開制度に基づく開示できるか否かというものについて、ここで審議するようなものではありませんので、そのものについてはご意見ということでよろしいでしょうか。あとは、生涯学習課長のほうで回答できるものについてお願いしたいと思います。

暫時休憩。

休憩 午前11時24分

再開 午前11時25分

- 委員長（島田 恒） 再開します。

生涯学習課長。

- 生涯学習課長（江波戸政和） 失礼しました。それでは、今のお話です。

公開条例の第12条の第5号の規定によりまして、その内容についてちょっと読み上げさせていただければと思います。

地方公共団体等の内部または相互間における審議、検討または協議に関する情報であつて、公にすることにより、素直な意見の交換、もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ、または特定の者に不当に利益を与え、もしくは不利益を及ぼすおそれがあるもの、これを開示することはできないものとされております。

あと、選定に至る過程における市の機関の内部の審議や検討等に関する情報であつて、これを開示することにより委員に申請者から採点に関する苦情が寄せられたり、不当な圧力がかかることが懸念される。委員が特定されない場合であっても、市の機関に対して採点に関する苦情や批判が寄せられることが懸念される。したがって、これらの開示が委員に心理的な負担を与えることとなり、委員が申請者との間に摩擦が生じることを危惧し、素直な評価や判断を行うことを避け、当たり障りない評価をするなど意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあると認められる。また、委員が当たり障りのない評価をする、委員会の審査が形骸化するおそれがある。今後も反復継続する本市の指定管理者候補者の選定事務において真にふさわしい者を選定できなくなるおそれがあると認められる、

第12条第6号の規定は、市の機関または国、他の地方公共団体等が行う事務または事業に関する情報であって、公にすることにより、当該事務または事業の性質上、当該事務または事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるものというところで確認しております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） それでは課長、情報公開条例第13条、部分開示、これについてはどのような解釈ですか。お願いします。

○委員長（島田 恒） 伊場委員の質疑に対し答弁を求めたいと思います。

課長、今の質疑に対しては、情報公開制度に基づいて開示できるのかできないのかというのをまずお答えしなければならぬと思いますし、今一部できるのかできないのかということにも同様でありますので、堂々巡りの質疑になってもいけませんので、お答え願いたいと思います。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（江波戸政和） 公開の確認ですが、点数等の話になろうかと思えます。項目については、個々の点数につきましては公開ができないものと考えております。あくまでも、全体の総得点ということで、公開ができるところで理解をしております。

以上です。

○委員長（島田 恒） 伊場委員。

○委員（伊場哲也） 続きまして、情報公開条例第14条ね。公益上の理由による裁量的開示、これも後ほどご確認ください。時間の制約等々もやっぱり考えなければいけないんですけれども、私の関係している弁護士に問合せをしました、この件について。指定管理者制度に伴う情報公開、これについてはどうなっているんだということ、ちょっと読み上げさせていただき、私がなぜこれにこだわって質疑させていただいたのかといったことをご理解いただければと思いますけれども、市議会議員が指定管理者審査委員会の審査基準や得点内容、結果の詳細を求めることは、一般的には市の条例や法令に違反する行為ではありません。

一つ、むしろ議会の監視機能を果たすために必要な情報収集と考えられます。ただし、情報公開に際しては、個人情報や法人の正当な利益を保護する観点から一定の制約が設けられている。例えば、旭市情報公開条例第12条第1項第2号では、個人に関する情報で、特定個人を識別できるものあるいは公開することで個人の権利利益を害するおそれがある

情報は不開示情報、今まで議論になっているところ。

また、第3号では、法人等に関する情報で、公にすることより競争上または事業運営上の地位が損なわれると認められるものも不開示情報とされている。これも既に理解をしているとおりにすけれども、法人の営業秘密だとか情報技術、それをあえて公表していただいたことによって貶めるなんていうことは、立場上、しないのです。できないのですね。

また、事業計画の要旨等を公表していただくことによって理解の一助になるということです。それが選定過程の透明性を確保する取り組みであるということ、指定管理者選定等に係る情報公開運用指針、これを定めていただくことにより、選定過程の情報公開に関する基準をしっかりと明示していただければこのようにならないという、そういう視点から質疑させていただきました。

委員長、以上でございます。

○委員長（島田 恒） 伊場委員については、本市の情報公開制度に対するご意見ということでもよろしゅうございましょうか。

そのほかに質疑ありますか。

（発言する人なし）

○委員長（島田 恒） 特にないようですので、議案第13号の質疑を終わります。

続いて、議案第16号について補足説明がありましたらお願いいたします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 議案第16号につきましては、本会議において補足説明を申し上げたとおりですので、加えての説明はございません。よろしくようお願いいたします。

○委員長（島田 恒） それでは、議案第16号について質疑がありましたらお願いいたします。

松木委員。

○委員（松木源太郎） 本会議でも聞いたんですけれども、これはいわゆる12月2日から保険証が発行されない場合の手続で、これは条例上、ここだけですか。ほかには、これに関した条例というのは担当課どうですか、ないですか。保険証を発行されなくなるわけですね。それに伴って保険証の提示を求めるとかということ、法律的にもう消えてしまうわけ。そこのところをちょっと全部調べたかどうかということ、国がやったのとは別に、それから参考までに、該当する方というのはいるんでしょうか。担当課にちょっとお聞き

したいと思えますけれども。

○委員長（島田 恒） 松木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（八馬祥子） 条例はこれだけです。確認いたしております。

すみません、これに該当する方がいるかというご質疑ですが、このひとり親家庭の医療費の助成事業に該当する方ということですか。この事業は、ひとり親家庭の父母及び当該児童に対して、当該児童が18歳に達する日以降の最初の3月31日、高校生年代までの間の医療費の一部を助成する事業でありますので、令和6年9月末時点で、母子・父子家庭は388世帯ございます。

以上です。

○委員長（島田 恒） ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（島田 恒） 特にないようですので議案第16号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（島田 恒）

これより討論を省略して議案の採決をいたします。

議案第1号、令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項について賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（島田 恒） 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第7号、旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（島田 恒） 全員賛成。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

議案第 8 号、旭市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(島田 恒) 全員賛成。

よって、議案第 8 号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第 13 号、指定管理者の指定について賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(島田 恒) 賛成多数。

よって、議案第 13 号は原案のとおり可決されました。

議案第 16 号、専決処分の承認について賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(島田 恒) 全員賛成。

よって、議案第 16 号は原案のとおり承認されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任いただきたいと思いますが、これにご異議ありませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(島田 恒) ありがとうございます。

ご異議ないようですので、委員長報告につきましては委員長一任とさせていただきます。

○委員長(島田 恒) 以上をもちまして、本委員会を閉会いたします。

大変ご苦勞さまでした。

閉会 午前 11 時 37 分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会文教福祉常任委員会委員長 島 田 恒

総務常任委員会

令和6年12月18日（水曜日）

総務常任委員会

令和6年12月18日（水曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項
- 議案第 2 号 旭市議会議員の議員報酬及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 3 号 旭市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 4 号 旭市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 5 号 旭市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 6 号 旭市使用料及び手数料に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 10 号 千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び千葉県市町村総合事務組合規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について
- 議案第 12 号 指定管理者の指定について
(道の駅 季楽里あさひ)
- 議案第 15 号 専決処分の承認について
(令和6年度旭市一般会計補正予算)

出席者（9名）

委員長	景山岩三郎	副委員長	崎山華英
委員	木内欽市	委員	伊藤房代
委員	林晴道	委員	遠藤保明
委員	菅谷道晴	議長	飯嶋正利
議員	戸村ひとみ		

欠席委員（なし）

傍聴議員（2名）

議 員 永 井 孝 佳

議 員 常世田 正 樹

説明のため出席した者（18名）

秘書広報課長 寺 嶋 和 志

行政改革
推進課長 椎 名 実

総務課長 山 崎 剛 成

企画政策課長 柴 栄 男

財政課長 池 田 勝 紀

税務課長 榎 澤 茂

市民生活課長 齋 藤 邦 博

会計管理者 小 澤 隆

消防長 常世田 昌 也

監査委員
事務局長 杉 本 芳 正

その他担当
職員 8名

事務局職員出席者

事務局長 穴 澤 昭 和

事務局次長 黒 柳 雅 弘

副主幹 菅 晃

開会 午前10時 0分

○委員長（景山岩三郎） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。最近、インフルエンザ等が大流行していますので、皆様にはご注意を十分にさせていただきたいと思えます。

ただいまの出席委員は7名、委員会は成立いたしました。

それでは、総務常任委員会を開会いたします。

本日、飯嶋議長に出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いいたします。

議長。

○議長（飯嶋正利） おはようございます。

委員の皆さん、大変ご苦労さまでございます。一昨日の建設経済常任委員会、昨日の文教福祉常任委員会と、今日残す総務常任委員会ということで、大変ご苦労さまでございます。

本日は、一般会計補正予算を含む9議案について審査をいただくことになっています。どうぞ慎重なるご審議をお願いいたしまして、簡単ではございますが、ご挨拶と代えさせていただきます。

それでは、景山委員長、よろしくをお願いいたします。

○委員長（景山岩三郎） ありがとうございます。

次に、執行部よりご挨拶をお願いいたします。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 改めまして、おはようございます。

着座で失礼いたします。

本日は、総務常任委員会の開催、大変お疲れさまでございます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案は、全部で9議案でございます。

その内訳でございますが、まず、予算関係が1議案で、議案第1号、令和6年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち、総務常任委員会の所管事項。

次に、条例関係が5議案でございます。議案第2号、旭市議会議員の議員報酬及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第3号、旭市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第4号、旭市一般職の職

員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について、議案第 5 号、旭市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第 6 号、旭市使用料及び手数料に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

次に、規約の制定に関する協議が 1 議案で、議案第 10 号、千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び千葉県市町村総合事務組合規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について。

次に、指定管理者の指定についてが 1 議案で、議案第 12 号は、道の駅季楽里あさひについて。

最後に、専決処分の承認についてが 1 事案でございまして、議案第 15 号は、令和 6 年度旭市一般会計補正予算（第 4 号）についてでございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方からの質疑に対しまして、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたしたいと思っております。

○委員長（景山岩三郎） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（景山岩三郎） ただいまから、本委員会に付託されました 9 議案の審査を行います。

初めに、議案第 1 号について、補足説明がありましたらお願いいいたします。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） 着座にてご説明をいたします。

議案第 1 号、令和 6 年度旭市一般会計補正予算の議決について、マイナンバーカード交付・更新事務に係る受付カウンター設置の内訳を、本会議において委員会で説明するよう求められましたので、補足説明をいたします。

補正予算書の 12 ページをお開きください。

歳出になります。2 款 1 項 1 目説明欄 2 の庁舎管理費 1,003 万 2,000 円のうち、本会議で説明したとおり、マイナンバーカード交付・更新事務に係る受付カウンター設置費用が 578 万 1,490 円となります。

その内訳ですが、諸経費を込みで、まず一つとして、申請書作成のためのパーティショ

ンつきハイカウンター1台、この設置費用が52万2,900円。

二つ目として、受付のためのパーティションつきローカウンター1台の設置費用が106万6,000円。

三つ目として、同じく受付用のパーティションつきローカウンターになりますが、こちらは、長さが2台分の長いタイプのもので、1台の設置費用が163万4,200円。

四つ目として、疑義受付のためのパーティションつきローカウンター1台の設置費用が53万2,600円。

そのほか、職員の執務用の椅子が4脚で29万4,400円。来客者のための椅子が6脚で27万9,000円。これらの配送費用などが26万円。そのほか、マルチカート2台、ワゴン4台が66万6,800円。

合計525万5,900円に消費税10%を加算して578万1,490円となります。

今回予算に計上した什器類は、多くの来庁者が訪れる本庁舎の顔となる1階のロビー内に設置することから、周囲との調和を図るため、現在本庁舎で使用している什器類と同じものを計上させていただきました。

以上で、議案第1号、マイナンバーカード交付・更新受付カウンター設置の内訳の説明を終わります。

○委員長（景山岩三郎） 担当課の説明は終わりました。

議案第1号について、質疑がありましたらお願いいたします。

崎山委員。

○委員（崎山華英） ありがとうございます。

今回の、歳出のほうの今ご説明いただいた12ページ、総務費一般管理費の庁舎管理費1,003万2,000円についてなんですけれども、すみません、ちょっと私のほうで機器を導入するのかと思ったんですけれども、あくまでパーティションの設置費用で500万円ほどかかるということで、はい、分かりました。

これは、今もう既に窓口のほうはできている状態ですけれども、それとは別の近くの部分に、何かパーティションができる、窓口の位置関係がいまいち、何か配置図とか資料が全くないので、ちょっといまいちイメージがつかめていないんですけれども、どの辺りに置かれるのかということと、特にお聞きしたいのが、これは必ず窓口へ行かないとできない手続なのか。できないのであれば、どのような理由で窓口でないといけないのかというのをちょっとまず一つお伺いしたいと思います。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） 場所については、玄関を入れていただいてすぐ左側に、少し広いスペースがあります。その奥にピアノがあるような状況、あそこの少し広いスペースを使って、今言った何か所かのカウンターを設置して、受付やら審査やらというようなことをするような予定であります。

これが、実際に市民課が所管になりますから、お客様が来たとき、市民課のほうでやっていただければいいんですが、かなりの人数が想定されるということで、本来業務のほうがかかり人を流すのに大変な状況になってしまいます。それでいろいろなことを検討した際に、例えば1か所、会議室とかを潰すのかとか、外へ持っていくのかとか、いろんな議論をしたんですが、住民にとって一番利便性のいいのは、そこにカウンターをつけて、それでさばくことが一番であろうというような判断の中で、そちらに設置するというようなことにしました。

（発言する人あり）

○行政改革推進課長（椎名 実） そうです。入ってすぐ左側というイメージでいただければ。

○委員長（景山岩三郎） 市民生活課長。

○市民生活課長（齋藤邦博） 手続のほう、本庁舎でないとできないのかということなんですけれども、ただいまマイナンバーカードの更新で訪れている方、5回目の誕生日まで有効の電子証明書の更新です。これは市役所、市町村窓口での再設定が必須となっています。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） 分かりました。

そうしましたら、窓口の手続に必要なもの、あと手続にかかる大体の考えられる時間と、あと休日の手続というのは、何か検討されているのかとか、あと期限までに、多分期限があると思うんですけれども、期限までに庁舎のほうで手続しなかった場合、こういったことが起きてしまうのかをちょっと教えてください。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

市民生活課長。

○市民生活課長（齋藤邦博） 電子証明書の更新手続で必要なものは、J-L I Sから送られてくる電子証明書の更新の案内の封書です。それとマイナンバーカード、それから暗証

番号をお忘れの場合には、本人確認が必要になりますので本人確認書類が必要です。この3点を持ってきていただきたいと思います。

それから、休日は、毎月第4日曜日の午前は受け付けて、交付手続を行っています。

それから、期限なんですけれども、5回目の誕生日まで電子証明書は有効で、その3か月前にJ-LISから封書が届くわけなんですけれども、3か月を過ぎてしまいますと、電子証明書が無効になってしまう。つまりコンビニエンス交付などで、住民票などが取得できなくなるというようなことが生じます。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 市民生活課長。

○市民生活課長（齋藤邦博） すみません。漏れました。1人当たりにかかる時間なんですけれども、おおむね10分程度、暗証番号をお忘れになった場合には10分以上ということになります。6桁と4桁の暗証番号を再設定していただかないとならないということになります。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） 丁寧に教えていただきましてありがとうございます。

ちょっと来庁するのがかなり手間とは思いますが、それをちょっと手続しないとなかなかコンビニ交付とか、できることができなくなってしまうというところがありますので、再度市役所のほうからも周知とか、あと休日も手続ができることとか、啓発をやっていたいただければと思いますので、よろしくお願いします。

私からは以上です。

○委員長（景山岩三郎） ほかに質疑はございませんか。

林委員。

○委員（林 晴道） それでは、本会議に続いて、詳細な部分を伺いたいと思うのですが、まず、18款2項1目です。財政調整基金繰入金2億1,059万9,000円についてであります。財政調整基金の状況を確認しますので、ちょっとこの間では、言い直しかあって、よくトータルで分からなかったもので、改めて15年前、10年前、5年前と比較をした基金の推移と、増減の主な要因について、具体的にお伺いします。

それから、もう一点、ふるさと応援寄附推進事業4,358万1,000円と、ふるさと応援基金積立金8,700万円の増加であります。本市においては、様々な広告宣伝、それからP

R活動など膨大な税金を投入していますので、当初予算が大きな見込み違いであったようです。今回の増額補正でも、見込みが大変甘いのではないかと考えますが、再度担当課の見解を求めます。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（池田勝紀） すみません、本会議では、すぐ15年前の数字が出なくて申し訳ございませんでした。5年前までしか用意していなかったもので、申し訳ございません。

15年前と10年前でよろしいでしょうか。15年前がもう一度金額の確認ということで18億7,669万円、10年前が62億4,891万6,000円になります。今現在、追加ですけれども、今回の補正が通りましたら、一応年度末の見込みとしましては73億円ちょっと残るかということになります。

15年前から、大分基金のほうは積み上がってきているというところがございます。状況としましては、直近では、令和3年、4年、5年と、財調のほうに積み上げるのではなくて、減債基金のほうに3年間積んでいるという状況がありますので、そこら辺では、多少積み上げがちょっと減ってきているという部分がありますが、取りあえず減債基金のほうは、目標の30億円ぐらいは積みたいというところは、一応目標に達してきましたので、これからはまた財調のほうに積み上げていきたいと、そういうふうを考えています。漏れていますか、大丈夫ですか、いいですか。

（「現在と5年前を比較した推移の増減が、結構な勢いで上がってきているので、その大きな要因を、もうちょっと分かりやすく聞いておきたいな」の声あり）

○委員長（景山岩三郎） 財政課長。

○財政課長（池田勝紀） 主な要因は、基本的には財政調整基金は決算剰余金の半額を下らない額を積むというところの中で、そういったところで剰余金のほうが、多少は見越してこっちへ繰り入れるよりもあったのかなというところで増えてきている。

また、直近5年については減っているのは、先ほど申しましたが、減債基金のほうに積み上げているので、少し数字のほうは減っているという状況になります。

何で積み上がっているのかというと、要はそれだけ、例えば前にも本会議で言ったような気もするんですけども、いろんな積み上がってきた20年間というところの中で、行

政改革として、まだやり足りない部分があるのではないかという部分で、公共事業の削減だとか、今やっと進み出した学校の統合だとか、そういった部分で大きな財政出動がもしあった場合に、その辺を使えるというところで、今までそれがやってあれば、もしかしたらこの基金というのは、ここまでは積み上がってなかったのかなと、そういうふうに個人的には思うところです。

○委員長（景山岩三郎） 企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） では、補正予算書 13 ページで、ふるさと応援基金、寄附金ですが 8,700 万円増、見込みが甘かったのではないかということでございました。

まず、当初予算につきましては、例年、過去の伸び率を踏まえて当初予算を計上いたします。今回の補正の考え方なんですけれども、昨年の寄附額の実績、上半期の実績、それと今年の上半期の実績を比較しまして、全体的におよそ 140%の伸びがございました。ということで、このままの推移でいけば、当然同様の程度で伸びるのではないだろうかということ踏まえて出したのが、今回の増額分 8,700 万円となっています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） それでは、財政調整基金の繰入金について、今回は、特に人事院勧告等を踏まえての影響が 1 億 4,000 万円強となりまして、初めてこれに対しての繰入れだということですが、これ非常に大きいですね。

それとは別にしまして、直近 5 か年での財政調整基金の繰入れを行った実績、これについて、5 か年、どういう推移なのか伺いたいと、そのように思います。

もう一点、ふるさと応援寄附推進事業、いわゆる返礼品に関わる点についてなんです、本会議で聞いたのを再度何かゆっくり話してもらったんですけれども、もうちょっと詳しく、詳細を聞きたいと思って質疑をしていますので、ぜひともご理解いただきたいと思うんですけれども、当初予算よりも増加した具体的な返礼品目だとか、増加を見込む返礼品目については伺いましたけれども、まだまだ増額をするような要素がたくさんあるというふうに感じています。それらに関して、担当課としては認めないようなことでありますけれども、違う視点があるのかどうなのか、違う視点があるのかどうなのかを伺いたいと、そのように思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○**財政課長（池田勝紀）** 直近5か年の取崩し額ということですが、令和元年につきましては4億200万円、令和2年が5億2,000万円、令和3年度が4億5,977万1,000円、令和4年度が6億5,000万円、令和5年度が5億4,390万1,000円となっています。

○**委員長（景山岩三郎）** 企画政策課長。

○**企画政策課長（柴 栄男）** まず、ふるさと応援寄附が増額している中で、返礼品で増えているものにつきましては、やはりハマグリが一番伸びています。全体的に寄附も増えていますので、相対的に増えていますけれども、伸びとしてはやはりハマグリが一番多いような状況です。

まだ増加する要素があるということですが、これは議案質疑のときもお答えしましたが、私も、ふるさと応援寄附自体、全国的に伸びていますし、旭市もまだまだ伸びる要素はあるというふうに思っています。今までも寄附が増えるような、どうやったら増えるかというのはやってきましたけれども、引き続き、どうやったら増えるかというのは検討して、検討というか考えていきたいと思っています。

以上です。

○**委員長（景山岩三郎）** 林委員。

○**委員（林 晴道）** 財政調整基金の繰入金の実績、5か年伺いましたけれども、その5か年の主な要因を伺いたいと思います。

それから、ごめんなさい、なかなか質疑の意が伝わらないようなんですけども、何か違う視点があるから増額すると、僕も思っているんですけども、それを認めないのか、その辺だけちょっと分かりやすく伺えればと思っています。

○**委員長（景山岩三郎）** 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○**財政課長（池田勝紀）** 直近5年間、今、数字を申し上げました。それぞれ数字が多い場合もあれば、少ない場合があると思います。この辺に関しては、繰入金の考え方なんですけれども、基本的には予算を調整するに当たって、まずはそのときにどういった執行すべき事業があるかというところ、その事業をやるについては、どういった財源があるのかというところですね、そういうのを、結局財源がなければ支出ということもできませんので、そのときに必要な予算執行が、これをやらなければいけないということであれば、財源があれば、特定財源、国・県から来る財源と、あとは市税とか一般財源があります。

補正の場合ですと、当初見越した歳入財源というのはない場合があります。そういった

ときに、どうしてもこの予算を執行したいというときであれば、財政調整基金があるのであれば、足りない一般財源について入れるということなので、だから都度都度、そのときのやりたい、執行したい事業というのが、年度年度でやっぱり違うと思うので、そのときのことを勘案しながら、この事業をやらなければいけないということであれば、不足した財源については、財政調整基金があるのであれば、それを使っていく。これはどの自治体でも、今までも補正予算を何回も何回もやっていますけれども、そういった形の考えで繰入れを行っているというところになります。

○委員長（景山岩三郎） 企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） それでは、ふるさと応援寄附を増やすに当たって、違う視点とはということでありました。今までやっていたのと違う考え方としましては、今、中間事業者といった、寄附を受けて返礼品の発送をする事業者があるんですけれども、その事業者において、近隣もそうなんですけれども、新たな返礼品の開発にたけているところ、また違ったPRの仕方にたけているところ、そういった事業者がありますので、そういったところの活用も検討していきたいと考えています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） すみません、財調のほう、実績から、ちょっとこれ順当かと思って導き出したいと思って、直近5か年の財調の繰入れの実績、それから見た場合の要因を聞いているんです。僕は、前回、副議長という立場でちょっと質疑を控えていた時期がありまして、ちょっと聞きたくても聞けなかったところが多くて、例えば、何か以前はコロナが要因であって、対策だとか言っていた、そういう具体的なやつで、直近5か年聞けたらいいと思っているんです。

ふるさと応援寄附推進事業についてですが、何度も言いますけれども、様々な本市の広告だとかPRしている部分で、そこにも税金が大量に投入されていますので、ふるさと納税が増加する要因にもならなければいけないだろうと、そのように思っているんです。その点、それに対する税金の投入、それに対する費用対効果に関して、分かりやすく担当課の見解を伺ってみたいと、そのように思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（池田勝紀） まさに林委員のおっしゃるとおりの要因というのは、一番初めに

考えられるところです。やっぱりコロナというのは皆さんご存じのとおり、後でいろんな財源が来たりもしますけれども、当面やっぱり初期出動でやる部分というところもありますので、そういった部分ではいろんな事業、コロナ対策をしたりとか、それ以降につきましては、物価高騰について、結構国のほうからいろんな対策ということでありましたので、そういった部分がやっぱり大きな要因なのかということになります。

あと、ちょっと個別なのはいろいろそのときの状況でありますので、福祉の関係だとか子育ての関係だとかということの中で、増えているところもあるのかというふうに考えています。

○委員長（景山岩三郎） 企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） それでは、ふるさと納税の関係の費用対効果の考え方ということでした。

まず、ふるさと納税をしていただくためには、旭市を知っていただくということが大事で、そこに関しては、いろんなふるさと応援寄附の事業であったり、そのほかの事業であったりしてPRしているところです。そういったPRをして、知っていただけたということが、寄附の増加につながっている一面もあるということは、実際そういう効果があるというふうには感じています。

ふるさと応援寄附推進事業に関して言いますと、これは、寄附が増えれば、当然経費も増えてくるわけですが、それは国の定めた範囲内で増えていっているわけなので、こちらについても、当然、どんどん増えていっていただきたい。それに関する経費で必要な分は、それは増えていくというふうに思っています。

費用対効果、具体的に数値がどのくらいかというのは、申し訳ないですが、それは出せませんけれども、金額が増えてきているということを考えれば、効果は上がっているのではないかというふうに考えています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 財政調整基金繰入金、財調ですね、ざっくりとしたところで分かりました。

ただ、もうちょっと心配なので確認したいのは、繰入れの充当、充当計画というのはしっかりあるものなのか。今年度、それからこの先、その辺をイメージした中で、充当計画はあるのかをお伺いいたします。

ふるさと応援寄附推進事業、こちらのほうも大枠は承知しています。今後も、旭市をPRするところに税金を投入して、こちらに反映させるというような考え方、そういう思惑のようなことは、担当課としては、最後にいかななものでありましょうか。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（池田勝紀） 繰入金の充当計画というのは、特には策定はしていません。多分ほかの自治体もなかなかないのかと思うんですけども、充当に当たっては、そのときの、要は事業のほう、これはやらなければいけない事業だということのまず認識という中で、その中で不足な部分、財源が見越せない、税金だとか交付税とかで見越せない部分だとか、足りない部分につきましては、財政調整基金の金額にもよりますが、基本的には、要は健全な財政がこれから先失われていないのか、いかな範囲の中でできるのかというところが、一つの判断材料かなというところになります。だから、財調が幾らというよりは、そのときの財政出動として、市民に対してこういった事業をやる、やらなければいけないのかどうかというところだと思うので、でも、なくなればそれはもう、要は支出のほうを削減しなければしょうがないという話になりますので、今現在はまだ、要は財政のほうも健全な財政を維持できているというところなので、財調のほうも70億円以上あるという中で、今回の繰入れということの考えになりました。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 市のPR、税金を使って導入してPRしているので、担当の考えということでした。

旭市をPRするのに、今力を入れている部分がございます。旭市をPRするに当たっては、これは結果ふるさと納税も増えるほうにもつながりますが、まずは旭市を知っていただくことで、訪れてくる人も増える。関係人口も当然増えるだろうし、これがまた移住・定住につながる、旭市を知っていただかないと、そもそも旭市が分からないので興味も湧かない。名前を知っていただくことで、何だろう、あそこ、じゃ移住も考えられるのかと、そういったところまで広がっていくと思っていますので、ふるさと納税の増えるのも含め、そういった市をPRすることで、よい流れができると考えていますので、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 財調の件、計画はないということで、多分これ、通告して質疑に入れば、計画をある程度言ってくれたと思うんです。その根拠は、僕もほかの議会のこういうような質疑事例を調査していますけれども、何らかのしっかりとした返答があるので、今の回答はちょっと担当課長としては口が滑ってしまったんだろうと思って、また後でそういう計画があるかと思うので、教えていただけたら、今回は納得したいと、そのように感じる場所なんですけれども。

であれば、充当先の優先順位の考え方、優先順位に関して、これもほかの議会や、そういうところでは結構聞くことでありますので、その点、本市の財政課の見解を求めたいと、そのように思います。

ふるさとは分かりました。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（池田勝紀） 繰入金の優先順位というよりは、事業の優先順位というふうになるのかなと思います。基本的には、優先順位がないようであれば、今回の補正にも多分歳出としては載ってきていないと思います。今回は、1号議案、補正予算について、こういった支出のほうが必要だというところで判断して、上程しているところなので、支出する部分に対しての財源不足というところで、補填しているということになります。繰り入れているということになります。

推計のほう、なかなか繰入金が年度ごとに幾らというのはないんですけれども、総合戦略の策定、今やっていますけれども、その中で財政推計というところではお示ししているんですが、特に、個別にその部分がどうだということはないんですけれども、そういった形で代替というか、考えられるのかということですが。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） ほかに質疑ございますか。

（「はい」の声あり）

○委員長（景山岩三郎） ただいま、戸村議員より発言の申出がありましたが、おはかりいたします。

委員の皆様の許可が必要となりますので、どういたしましょうか。ご異議ございません

か。許可することにご異議ないですか。

(発言する人なし)

○委員長（景山岩三郎） ご異議ないようですので、戸村議員、どうぞ。

○議員（戸村ひとみ） ありがとうございます。

それでは、庁舎改修工事について質疑したいんですが、私、本会議のほうで質疑いたしましたら、委員会のほうで詳細にわたりましての説明をされるということでご答弁があったんですが、それで、私、本日傍聴に参りました。

せめて図面というんですか、図面ぐらいは、あといろんな経費の表ぐらいは出されるのかと思って来たんですけども、図面も出ない。いろいろな金額についても口頭で説明がありまして、図面はないんですか。あと、経費の表みたいなものもないんですか。質疑で大体どの辺ですかねと、いや、大体入って左ぐらいをイメージしてもらえばいいかと思えますとか、これ議会ではないですよ、委員会ではないですよ。大体で何か済むんだったら、私たち議員は要らないですよ。これはもう議会軽視というか、委員会軽視というか、そのレベルだと思うんです。詳細にわたって委員会での説明をしますと答弁ありましたよね。

図面があるのかないのか。ないのだったらどうしてないのか、あるのだったらどうして委員会で示されないのか。

それから、いろいろローカウンターだとか、ハイカウンターだとか、いろいろありまして、ワゴンだとか、ちょっと書き取れなかったので、ざっくりしか私も書き取れていないんですが、後ほどこの資料はいただきたいと思います。

それで、椅子、カウンターで職務をされるための職員の椅子ですか、4脚で29万何千円と言われました。市民の手続にいらっしゃる方の椅子が6脚でしたか、ちょっときちんと書き取れていないんですけども、6脚27万9,000円とかという話だったんですが、それで、今現在市で使っている、職員が使われている椅子と同等のものということだと、という説明でした。4脚29万何千円ということは、職員は今現在1脚7万円なにがしの椅子をお使いなんでしょうか。そここのところをお願いします。

○委員長（景山岩三郎） 戸村議員の質疑に対し、答弁を求めます。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） 本会議において詳細という話ありました。これは一つ一つ見積り等を取っていますので、そういった資料は持っているんですが、それを一つ一つ

説明するのは細かいかなということで、ここで詳細というのは、一つのものについて幾らかかるというのを説明するというような話だったと思います。

それで、あと、職員が7万円の椅子に座っているかどうかというところまでは分かりません、それは。

(「同等のものとおっしゃった」の声あり)

○行政改革推進課長(椎名 実) はい、それは物については同等、同等というのは、イメージとしては、今の、余剰とは言いませんけれども、空いているスペースに今のカウンターや机が並ぶというイメージを持ってくださいという話です。

それで、確かにそれは図面のようなものはありません、確かに。ですので、そこに設置をして、大まかに書いたようなものはありますけれども、図面というものは用意していなかったもので、それでちょっとお出しはできませんでした。ですから言葉での説明にはなりましたが、何がなくて何が安いという基準がよく分からないんですけれども、必要で、今あるものを、今あるものと同等のものを用意するというので、それで、それについての見積り等は取って、その結果、この金額になったということです。

以上です。

○委員長(景山岩三郎) 戸村議員。

○議員(戸村ひとみ) 課長、答弁には責任を持ってください。私、椅子のことに對しましても、高いとか安いとか全くそんな評価を入れていません、質疑の中に。高いからとかというように一言も言っていません。課長はそういうふうの高いとか安いとかというふうにおっしゃいましたが、私が高いというふうにいるという想定での答弁だと思うんですけれども、私そんなこと一言も言っていません。同等のものと言われたので、7万円何がしかの椅子を職員は使ってらっしゃるんですかと聞いたんです。それがどういう椅子を使っているか分からないとか、それでは同等のものという、答弁と全く矛盾ですよ、これ。この辺きちんとしてください。

○委員長(景山岩三郎) 答弁を求めます。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長(椎名 実) すみません、高いか安いかというのは、高いというのは本会議の中で、この額は高いという、たしか発言を受けたので、それで今、私そういう話をしました。

それで、同等品と、要するに、どういったものをそこに備えるのかというのを説明する

際に、カウンター部分を増やすという意味で、今あるものを、同等のものを設置するというような説明をしたつもりでいます。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 戸村議員。

○議員（戸村ひとみ） それでは、椅子は同等ではありませんか。カウンター部分を増やすということで同等なものとおっしゃいましたので、カウンター部分が同等、椅子は同等ではないですか。7万円何がしかの椅子を選ばれたその根拠をお願いします。

○委員長（景山岩三郎） 行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） 見積りを取った際に、品番等は変わるかもしれませんが、同じようなものということで、同じ業者から見積りを取りましたので、その額が申した金額になります。

ただ、これは今後は入札になりますので、必ずしもこの額ということではないです。今は見積りを同じ業者に、庁舎をやって備えていただいた業者から見積りを取った額がこれ、それと同等品と言ったのは、全く同じもの、品番が変わるかもしれませんが、全く同じもの見積りを取った金額です。ですから、これを今度、実際には執行する際には、入札にかかると思いますので、この金額で買うというような、買うとか補充するというようなお話にはならないかと思います。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 戸村議員。

○議員（戸村ひとみ） 入札にかかると思いますのでとおっしゃいましたが、入札ですか。確実ですか。

○委員長（景山岩三郎） 行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） 今後入札になります。

それで、今、使っている職員の椅子についても、定価が7万円で、それで入札で、結果落ちたというようなことが、今ある椅子の状況になります。

○委員長（景山岩三郎） 戸村議員。

○議員（戸村ひとみ） 確認です。今現在、職員が使ってらっしゃる椅子は7万円の椅子なんですね。

（「定価7万円」の声あり）

○議員（戸村ひとみ） 定価7万円とはどういうことなんですか、それ。それこそ入札で落

ちて購入した金額ではないんですか。定価7万円ってどういうことですか。ちょっとそこをはっきりさせてください。おかしいですよ。

○委員長（景山岩三郎） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前10時47分

再開 午前10時48分

○委員長（景山岩三郎） 引き続き会議を開きます。

戸村議員の質疑に対し、答弁を求めます。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） 椅子ですけれども、予算を取ったときは7万8,000円でした。それが入札をかけて、落札した結果として5万8,428円。

（発言する人あり）

○委員長（景山岩三郎） 戸村議員、今答弁していますから。

○行政改革推進課長（椎名 実） 5万8,428円で落札されたということです、椅子1台当たりについて。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 戸村議員。

○議員（戸村ひとみ） それで今回も同等なものをいわゆる見積りにして、入札価格として出すのに、7万8,000何ぼというのを出されるということですね、定価が。定価7万8,000幾らで出されるということですね。それで入札で応札してきた人の中で、当然のことながら一番安いところから入れるということになるんでしょうけれども、そうすると、結果5万幾らになるかもしれないというような、そういうことでよろしいですね。あとで細かいところの数字までのをください。分かりました。

あと、図面はないということでもよろしいですね。分かりました。

○委員長（景山岩三郎） ほかに質疑ございますか。

（発言する人なし）

○委員長（景山岩三郎） 特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第2号から議案第5号までの4議案について、関連がありますので、補足

説明がありましたら一括してお願いいたします。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 議案第2号から議案第5号までの4議案につきましては、本会議の補足説明並びに議案質疑でご説明したとおりでありますので、加えての説明はございませんのでよろしくお願いいたします。

○委員長（景山岩三郎） それでは、議案第2号から議案第5号までの4議案について、一括して質疑に入ります。

質疑ございますでしょうか。

林委員。

○委員（林 晴道） 本会議で、僕、旭市議会の議員報酬というところで質疑を行わせていただきました。やはり最低賃金等上がっている状況でありますけれども、市民の現状を把握したり、調査してみますと、なかなか簡単にはい、そうかといけないので、やっぱりこれは質疑だとか質問を重ねて、取り組まなければならないというように思うんです。ですから、ここには、一般職員の給与に関する条例もありますので、そちらの部分ということで、自分のほうの襟を正し、律した後で、皆さんのほうにもちょっとお伺いをしてみたいと、そのように思うんですが、改めてそちらのほうから見た場合に、人事院勧告を踏まえたことによりまして、特に民間準拠という部分に関してはどのようなお考えであるのか、具体的に伺いたいとそのように思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） それでは、民間準拠ということですが、本会議のときの回答とちょっと重複してしまうところもありますけれども、人事委員会を設置していない旭市におきましては、情勢適応の原則という、まず、民間企業との給与水準の均衡を図ることが示されていまして、民間企業との給与水準の均衡を図るということにおきまして、国の人事院であったり、県の人事委員会の勧告というものに対しまして、市として準拠しているという形が、民間準拠という形になるというふうに認識しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 今まで、このことに関しては議員報酬にも必ず直結することであるの

で、しっかりと質疑を重ねて、市民の実態を見越して、採決に臨まなければならんなど思っ
てここまで活動してまいりました。今回が一番何だか簡素で、ちょっと市民に伝えづら
いなという答弁であるので、あえてここでもうちょっと続けていきたいと思うんですけれ
ども。

地方公務員法の第24条第2項には、法の趣旨としては、旭地域の民間事業者の従事者
の情報を考慮せよと、そのようにうたっていると読み解けるわけなんです。本市では、市
内の実態を調査をしないという回答をもう十数年いただいているんですが、もうちょっと
その辺柔軟に、軽度でもいいので、そういう目線を持たないのかを聞きたいのであります。

特に、企業規模50人以上かつ事業所規模50人以上であるのですけれども、調査の対象
が、それは旭市では、この間回答あったように件数は少ないんです。例えば、それを30
人に絞って、どのぐらいの件数があるのかとか、そういうような調査はしているのか、し
ていないのか、もし分かるようだったら教えていただきたい。

それから、前回、本会議でお答えいただいた50人以上という部分が、どういったよう
な事業所であるのかも併せて伺いたいとそのように思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 旭地域の民間事業者の状況に合わせてというようなお話でござい
ましたが、やはり市としては、当然、地域企業との給与とかを比較して、ボーナスとか給
与とか、その辺を決定していくことが確かに理想ではあるのですが、やはりその人数です
ね、人数を30人に抑えて調査してはどうかというところのご質疑なんですけれども、や
はり調査のまずノウハウだとか、そういったサンプル数の制約だとか、調査したときのデ
ータの信頼性だとか、あとやるときの物理的、人的、財政的な面に関して、やはり費用が
かかるということで、今現在は30人に抑えての調査のほうも考えてはいないというところ
でご理解いただきたいと思います。

あと、50人以上の事業者ということでございますが、50人以上の旭市の主な業種とい
うことですが、それはちょっと今手元に業種別のものがないもので、また後で回答させて
いただきたいと思います。

以上でよろしいですか。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） やはり旭市内の民間事業者の実態とかけ離れていないのかと、そうい

う部分が、何度も言います、心配なんです。やはり自分らだけ報酬だとか給料が上がって、よかったなということだけでは済まないんですね、税金を頂戴している限り。やはりそういう調査だとか実態把握をしっかりとつかんでいるんだというものを、しっかりと市民に提示をしていかないと、なかなか受け入れ難いと思うんです。役人天国だとか、そういう何かよくない言葉も出てしまうので、やっぱりしっかりとそういう調査や実態把握をやっていますと、そういったような、検討しますぐらいな感じ、今まで言ってくれたんだが、今回ないからね。ちょっとその辺が気になったところであります。いかがでしょうか。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） それでは、民間のそういった給与だとかボーナスの調査につきましては、今後十分研究しながら、調査研究させていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） ほかに質疑ございますか。

（発言する人なし）

○委員長（景山岩三郎） 特にないようですので、議案第2号から議案第5号までの質疑を終わります。

議案の審査は途中ですが、11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時10分

○委員長（景山岩三郎） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

続いて、議案第6号について、補足説明がありましたらお願いをいたします。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 議案第6号につきましては、本会議の補足説明並びに議案質疑でご説明したとおりでありますので、加えての説明はございません。よろしくお願いたします。

○委員長（景山岩三郎） それでは、質疑に入ります。

議案第6号について、質疑がありましたらお願いいたします。

崎山委員。

○委員（崎山華英） お願いします。

まず、もし資料があればなんですけれども、道の駅のほうの使用料で、各施設があると思うんですが、現在の利用状況、例えばこの施設がどういった業者が使っていて、どれぐらいの数の業者が使っているだとか、その中の現状をちょっと教えていただきたいのと、あと、今回値上げした額の算出根拠をちょっと教えていただきたくて、何か別の施設などを参考にしたのかとか、どういった理由で今回のこの金額になっているのかの詳細を教えてください。

これはあくまで限度額ですというご回答が、質疑のほうにあったと思うんですけれども、現行の使用料というのは、今本当に限度額いっぱいの使用料だと思うんですけれども、改正の後に、限度額いっぱいの使用料にするのかどうかというのは、いつどのように決定するのか教えてください。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） では、道の駅の現在の施設ごとの利用状況ということでした。

まず利用、飲食提供スペースはレストランになります。テナントスペース1、これはパン屋です。テナントスペース2がアイスとイイますかジェラート。テナントスペース3が、スムージー。あと農水産物等販売施設は、野菜等を売っているスペースになります。イベント広場、芝生広場は外の広場。加工施設、会議室は中にある、本当に加工室と会議室になります。

すみません、それぞれの利用状況、何人が使ったかというのは、ちょっと数がございません。

次に、値上げの額の根拠になります。本会議でも議案質疑でちょっとお話ししましたが、施設開設以来、ずっと値上げをしてきていなかったというものがあまして、現行の利用料金に一律10%、物価上昇分相当ということで10%を加味しました。

それと、テナントスペースごとに単価が、平米当たりの単価が違っていましたので、平米単価をそろえました。

あと、今回の条例改正は限度額ということになります。いつ決まるのかというお話でした。まだ次の道の駅の指定管理が決まっていますので、決定した後にはっきり決まると

いう段取りになります。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） 分かりました。決定した後に改めて決めるということなんですけれども、ほぼ限度額いっぱいの使用料になるという可能性が高いという認識ではなく、それも話し合いの中で決定されるということですね。もしかしたらそのまま現行どおりの使用料になるかもしれないし、限度額の中での、間を取ってとか、その中の範囲での使用料になるという認識でよろしいですか。はい、分かりました。

そうしましたら、下の別表第2のほうに移るんですけども、多機能端末機で発行する場合の手数料が200円と区別されるということで、多機能端末機というのは、コンビニ交付という認識で合っているのか、それともコンビニ交付以外にも何かあるのか、多機能端末機の詳細を、すみません教えてください。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） 多機能端末機とは、コンビニにあるものです。それで、旭市の電子計算機と電気通信回線によって接続された端末機で、各種証明書を自動的に交付する機能を有するものを、多機能端末機と言っています。コンビニにあるコピーを取る、そのことです。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） ありがとうございます。そうしますと、200円で差別化というか、コンビニ交付したほうが安くなるということは、コンビニ交付したほうを推進したいということもあると思うんですけども、近年、コンビニ交付の発行率が上がってきているのかとか、そういったデータがもしあれば教えていただきたいんですが。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

行政改革推進課長。

○行政改革推進課長（椎名 実） コンビニでの交付率ですけども、2021年については5.6%でした。2022年については9.9%です。2023年については17.7%と上がっているような状況です。

○委員長（景山岩三郎） ほかにございますか。

菅谷委員。

○委員（菅谷道晴） ちょっと教えていただきたいんですがございますけれども、本年度、季楽里の収支というか、利益が出てということだったと思うんですが、私の記憶が正しければ。幾らの利益か、もう一度教えていただきたいのと、季楽里あさひ、旭市が筆頭株主ということで多分説明があったと思うんですが、単年度で、株主に対して、例えば旭市が出資していれば、旭市に利益分を、市のほうの財政のほうに入れてらっしゃるのか、その辺どうなのか教えていただけたらありがたいです。よろしくお願いします。

○委員長（景山岩三郎） 菅谷委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） すみません、ちょっと確認です。最初の質疑でしたが、利益がどのくらいかという。

（「そうです」の声あり）

○企画政策課長（柴 栄男） ちょっと待ってください。

それでは、道の駅の売上額ではなくて利益でお答えします。

令和5年度においては2,000万円、令和4年度は1,690万円、令和3年度が1,200万円ほど利益が上がっています。年々利益のほうは上がっている、純利益になりますけれども上がっている状況です。

その利益に対して、株主への還元なんですけど、これにつきましては、配当につきましては、株主に配当をしています。すみません、ちょっと金額は確認させていただきたいと思っています。すみません。

失礼しました。1株当たり1,000円を配当しています。当然、市もそうですし、株主であるJAちばみどり、商工会、海匠漁協、そのほか市内の銀行にも当然配当しています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） いいですか。ほかに質疑ございますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（景山岩三郎） 特にないようですので、議案第6号の質疑を終わります。

続いて、議案第10号について、補足説明がありましたらお願いいたします。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 議案第10号につきましては、本会議の補足説明並びに議案質疑でご説明したとおりでありますので、加えてのご説明はございませんので、よろしくお願いします。

○委員長（景山岩三郎） それでは、質疑に入ります。

議案第 10 号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（景山岩三郎） 特にないようですので、議案第 10 号について質疑を終わります。

続いて、議案第 12 号について、補足説明がありましたらお願いいたします。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 議案第 12 号、指定管理者の指定について、企画政策課から補足説明を申し上げます。

本日配付いたしました選定審査基準表について説明をさせていただきます。

旭市公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例第 5 条の規定により、公募を行わず指定管理者候補者の選定を行いましたが、この表につきましては、その際用いた審査基準表になります。

記載の評価基準の項目ア、イ、ウにつきましては、同条例の第 4 条の規定により、第 1 号から第 3 号に掲げる選定の基準に照らしたものです。

結果、当該施設の指定管理者として十分な実績や、施設の管理運営において設置目的の達成に向けた理解がなされており、指定管理者としての業務遂行能力を有していることから、指定管理者候補者に選定することといたしました。

以上で、議案第 12 号の補足説明を終わります。

○委員長（景山岩三郎） 担当課の説明は終わりました。

議案第 12 号について、質疑がありましたらお願いいたします。

崎山委員。

○委員（崎山華英） お願いします。

第 12 号の指定管理者の指定についてなんですけれども、こちら株式会社季楽里あさひのほうに、市から指定管理料というのは利用料等で充当しているということだったと思うんです。充当しているということで、表面上見えないんですけれども、5 年間の推移とかそういうを出しているのであれば、教えていただきたいんですが。出していらっしゃいますでしょうか。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） ここにつきましては、指定管理料は出しておらず、自前とい

うか自主事業という形でやっている。それをもって会社を運営しています。なので市から指定管理料という形では支出はしていません。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） 分かりました。

ちなみに、充当している利用料等の内訳は、ちょっとどういったことになっているのかが、ちょっと私がまだ理解をしていなくて、例えば建物、先ほどの使用料の分と、あと土地の賃借料とかそういうのが全部指定管理料と相殺みたいなことになっているのか、ちょっとごめんなさい、内容が分かってなくて、何で充当しているのか、この利用料等の中身ですね。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 先ほどの利用料について言えば、あれは株式会社季楽里あさひの収入になります。単純に施設を使っただけの分が、会社にとっての収入として入ります。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） 利用料が単純に株式会社季楽里あさひの収入になる分、指定管理料を払わなくていいという協定になっているんですか。それとはまた別の話なんですか。

○委員長（景山岩三郎） 答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 指定管理のやり方ですけれども、市から指定管理料を支払って、その施設を管理してもらいやり方。それと、指定管理料は支払わないで、自前の運営で管理してもらいやり方がありまして、道の駅については、市からの指定管理料はなくて、自分たちの運営の中で収益を上げて、利用料もそうですし、出荷者、出荷される方が、基本はあそこで野菜を販売するときは、会社で手数料を取っています。その手数料などを収入源としまして会社を運営しています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） ちょっと質疑のほうで、新たな取り組みなどは予定していないような回答だったと思うんですけれども、これまでいろいろな事業努力されていたと思うので、

利益のほうも年々上がってきていると思うんです。この5年間株式会社季楽里あさひがどういった経営方針で、どのようなことに力を入れて、5年間の間にまたいろんな改良とか改善とかやってきたと思うんですけれども、どういったことに力を入れてきたのかとか、あとどういった客層を主にターゲットにしているとか、そういった運営方針ですとか、どういったところに力を入れているのかというのをちょっと教えていただけたらと思います。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 年度ごとの考え方というのは、毎年、株主総会を開きますので、そのときに資料で、前段で今年の考え方なり目標なりというのを記述されています。すみません、今ちょっと詳しいのはないんですけれども、まず道の駅の使命である道路利用者の休憩機能であること、情報発信であったり、あと地域経済の活性化、その三つが道の駅の基本になると思うんですけれども、まずは基本はそこを確実に行うこと。

あと、コロナ禍であれば、そういった部分も配慮してというのがありますが、現在であれば、基本はまずさっき言いました休憩機能、情報発信機能、地域連携機能を確実に取り組んでいく、その結果が、道の駅季楽里だけではなく、会社もそうですし、出荷者協議会もそうですし、そういったところと連携しながら、うまく毎年運営を行っていつている。それが結果、今のいい形になっているのかなというふうに理解しています。

客層につきましては、特にこの年代というのはありませんが、基本、利用者の割合、これはちょっとはつきり出ているわけではないんですけれども、近隣の利用者のほうが多いというがあるので、リピーター、近隣もそうですし、市外、県外の方もそうですが、まずリピーターを増やしてもらいたいというのと、休憩もそうですが、まず、あそこへ行って新鮮な物が売っている、その辺のPRのほうにも力を入れてやってもらっているというふうな状況かと思います。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） ありがとうございます。私もたまに利用するんですけれども、確かに近隣の方の利用者が多いと思って、野菜とかすごく新鮮で安いですし、今後はもっといろんな遠方からも来れるような、何か工夫とかやってほしいという思いとかも、いろいろあるのかもしれないんですけれども、これからも運営のほうをやって、頑張りたいなと思っています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） ほかに質疑ございますか。

林委員。

○委員（林 晴道） それでは、引き続いて、道の駅季楽里あさひの指定管理者の指定について、伺いたいのは、まず改めてこの施設、設置の目的等があれば伺いたい。

それから、設置の面積、総面積、それから管理いただく附帯している建築物を全てちょっと伺いたいと思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） まず、設置目的ですが、先ほどちょっとお話ししました、まず、道の駅としましては、設置の目的ですが、目的としましては、道路利用者の安全で快適な道路交通環境の提供、それと地域振興に寄与というのが基本的な道の駅の考えとなります。

すみません、面積なんですが、ちょっと今手持ちがございませんので、後で、すみません、回答させていただきたいと思います。

建築物ですが、道の駅の施設本体、あとトイレ、芝生広場、遊具、電気充電器、あと駐車場が主なものになります。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 附帯する建築物、ちょっと指定管理して、管理してもらうのに非常に重要なので、駐車場はいいんですけれども、建築物が改めてちょっともし分かれば、はっきりとお答えいただけたらありがたいと思います。

それから、現在の利用状況と言えいいんですか、例えば売上げだとか集客人数、目標に対して売上げがプラスになっているので、達成していると思うんですけれども、その辺の状況がどのようなものなのか、詳細をちょっと伺いたいと思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） まず、売上げ、ちょっと答弁漏れがあったら、すみません、指摘していただければと思います。まず売上げになりますが、令和5年度につきましては9億7,700万円、令和4年度が9億2,900万円、令和3年度が8億3,500万円、令和2年

度が8億1,200万円、令和元年度が7億5,300万円となっています。

あと、すみません、ちょっと細かな施設につきまして、今資料を用意しますので。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） すみません、調べれば分かる数字的な売上げの金額もありがたかったんですけども、要は目標をしっかりと達成できていて、順調な経営であるのかというのを重視して聞きたかった。

それから、利用状況として、集客、先ほどと一緒にですけども、見込みに対してこれだけクリアしていますというのを聞いてみたいと、そのように思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） すみません、まず順調な経営なのかということからですけども、先ほど売上げを申し上げましたとおり、経営としては順調な経営を行っています。売上げの見込みなんですけど、これは毎年、先ほどちょっとお話ししました総会で、年度ごとの目標数値、売上額を出します。それに対して、大体それを上回るような結果が出ていますので、経営としてもよくやっただけにいます。

それと、施設の管理ですけども、道の駅、まず面積になります。先ほどの質疑の答弁漏れの部分になります。道の駅の建物面積ですが、延べ床面積で1,544.85平方メートル。あと附属するものとして、資材倉庫、ボンベ置場、あずまや、駐車場がありまして、施設としては以上となります。あと、敷地全体の総面積になります。1万5,452平米が総敷地の面積となります。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 前者、前々者で、決算というか財政の状況を確認してもらっていたんですけども、もうちょっと、後ででも結構なので、資料的に、そうであれば予算が幾らで見た中で、決算としてはこの数字だったので、これだけ財政的にはいいんですということちょっと聞いてみたいと思ったので、その辺いただけたらと思います。今は結構です。

あと、集客は、ちょっと人数程度でもないですか。その辺をちょっと聞いてみて判断したいと思うんですけども、お願いします。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 失礼しました。利用人数になります。令和5年度126万9,000人、令和4年度122万人、令和3年度112万7,000人、令和2年度111万3,000人。こちら、コロナ禍もありましたけれども、各年度順調に利用者数も伸びている状況です。以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 順調であるという発言とその形、よく分かりました。分かれば結構ですが、今、道の駅も人気なんですよね。類似施設、その辺と比べた状況で、本当に順調な本市の道の駅季楽里あさひは、ほかの施設と比べても遜色がないような順調な形で、入れ込み人数あたりでちょっと比較してもらえたらありがたいなと、分かれば結構です、お願いします。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。
企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 令和5年度の近隣施設の集客の比較になります。先ほど言いました道の駅季楽里あさひにつきましては126万9,000人。多古になります。66万4,000人。水の郷さわら115万4,000人。一番近くですがふれあいパーク八日市場56万7,000人。単純に集客数を比較しますと、季楽里あさひとしては、今言った中では一番多いような状況になっています。以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 今、非常にいい結果を聞いて安心しました。よかったなというふうに思います。

そのほかで、旭市の指定管理者候補者選定委員会の状況を最後に聞いてみたいと思うんですけども、提出された事業計画書等の資料を基に、総合的に評価し、審査を行った結果、該当施設の指定管理者として業務遂行能力を有する者と、先ほどお話を伺いました。

では、指定管理者候補に選定した、選定委員の状況をここでも聞いてみたい。全委員対象に、ちょっと人物紹介を求めたいと思ひまして、例えば委員に有識者とされる方がいらっしゃれば、有する知識を確認したいと思ひますので、職業だとか役職で結構でありますので、お答えいただきたいと思ひます。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。
企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 道の駅季楽里あさひの指定管理者の選定につきましては、旭市の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例の第5条で、公募によらない指定管理候補者の選考等ということで、公募ではなくて、株式会社季楽里あさひに申請をするように、こちらから申請をするようにやって、それで会社からこちらに申請書を上げてもらった形になっています。

この選考に当たっては、選定委員は設けませんで、担当のほうで評価をしています。
以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） こちら選定委員会がなかったのを知りませんで、すみません。

総合的に、いろいろと内容等を吟味されたんだろうと、そのように推測はしますし、それに対して何ら疑義はありませんけれども、当施設の価値だとか潜在能力を発揮してもらって、道の駅、一義的には旭市の顔ですよ、農畜産物がもうここでPRするんだということなので、旭市のPRをするような、そういう部分はどのような取り組み、話合いがあったのか、なかったのか、現状、その辺いかがなものなのかを最後に聞いてみて、終わりにしたいと思いますが。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

企画政策課長。

○企画政策課長（柴 栄男） 道の駅につきましては、やはり旭市を代表する施設の一つであるとこちらでも理解しています。当然、会社のほうも理解してまして、施設の適正な管理もそうですし、PR、外へのPRにも力を入れている。当然、休息施設ではあるんですけども、やはり新鮮な野菜等も目玉になっていますので、その辺は十分注意して、管理等を行っていただいています。

市のPRについては、ホームページ、SNSなんかも活用していますが、折があるごとに、雑誌であったり、そういったところにも、雑誌なんかも利用しながらPRをしていますので、引き続きPRのほうにも励んでいただけたらと思っています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） ほかにございますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（景山岩三郎） 特にないようですので、議案第12号の質疑を終わります。

続いて、議案第15号について、補足説明がありましたらお願いいたします。

財政課長。

○**財政課長（池田勝紀）** 議案第15号につきましては、本会議の補足説明並びに議案質疑でご説明申し上げました。加えての説明はございませんので、よろしく申し上げます。

○**委員長（景山岩三郎）** それでは、質疑に入ります。

議案第15号について、質疑がありましたらお願いいたします。

崎山委員。

○**委員（崎山華英）** お願いします。

今回、衆議院選挙の運営費のほうだったと思うんですけども、選挙の期日の決定がかなり直前だったというところで、未確定とはいえ、事前に準備を行っていないともう間に合わないようなところだったと思うんですけども、どのような対応を今回されていたのかということと、今回のように、直前のスケジュール決定で、業者の発注だとか作業について、遅滞が起きたりだとか、また職員の残業が通常選挙業務以上に増加したなど、こういった急なスケジュール決定で、何か影響があったのかどうかというのをちょっとお聞かせいただきたいなと思いました。

○**委員長（景山岩三郎）** 崎山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○**総務課長（山崎剛成）** 今回の衆議院選の関係なんですが、やはりいつ選挙になるかというのは、前もって、情報がたくさん流れていましたので、一番短いもの、短い期間ということ想定しながら、準備のほうはしていたところでございます。やはり一番短い期間での想定をしながらでも、事前事前に準備をしてきたつもりではございますけれども、衆議院議員選挙、最高裁判官の審査もございますので、いろんな事務量というのはやはり多いものでございますので、残業等も多めに出してしまったというのが現状でございます。

以上です。

○**委員長（景山岩三郎）** 崎山委員。

○**委員（崎山華英）** 何か具体的に、通常の、あらかじめ期日が前もって分かるような選挙とは違って、どれぐらい残業が増えたとか、そういった何かデータとかは出してははいないということですか、具体的には。

○**委員長（景山岩三郎）** 答弁を求めます。

総務課長。

○**総務課長（山崎剛成）** 残業時間数の比較というのは、今ちょっと、まだ確定数値とか出

ていませので、これから検証してみたいというふうに思っています。

（「発注作業とか何か、看板設置が遅くなったとかということはありませんか」の声あり）

○総務課長（山崎剛成） 事務的に遅滞、旭市として、選挙業務の中で遅れたものというものは無いというふうに認識しています。

○委員長（景山岩三郎） 崎山委員。

○委員（崎山華英） ありがとうございます。ほかの自治体によっては、体育館が運動会の日とかぶってしまって使えなくなってしまうとか、そういったいろいろな悪影響があったと聞いていましたので、今回、旭市の場合は、遅滞なくやっていただけて、本当にありがたかったなと思います。どうもご苦労さまでした。

私からは以上です。

○委員長（景山岩三郎） ほかに質疑ございますか。

林委員。

○委員（林 晴道） 本会議に引き続いて、細かいところを聞きたいんですけども、看板書替委託料がございまして、初めて気づきました、大きい看板があったんだということが。

それで、その看板の、ちょっとごめんなさい、設置目的と、なぜそこなのか。設置した年月日が分かれば、ちょっと聞きたいと思います。

○委員長（景山岩三郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 回答申し上げます。

ただいまちょっと看板の設置した日時とか、その辺のデータを持っていませんので、すぐ答えられませんが、目的につきましては、選挙のやはり啓発活動の一環として立ててある屋外用の広告物ということで、あそこに設置してあるもので、設置した時期につきましては、はっきりとはちょっと不明な点がございしますが、合併前からあそこには設置しているということでございます。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 合併前は、旭地域全部で250か所のポスター掲示板があったんです。それが合併に伴って投票所が再編されまして、今現在152か所ですか。投票率を上げたい

と、選挙は必要なんだということを、しっかりと本会議場で伺っていますので、何というんですか、予算の使い方の中で、旧旭市に1か所あるわけですね、書き換えが必要な大きい看板が合併前から。それで旧3町にはないんです。ちょっとその辺も加味した予算であってほしいと思うんですが、1か所であるというのは、何か理屈、根拠があるんでしょうか。せつかくであれば、やはり合併前からあったというのであれば、ほかの旧3町のほうにもしっかりと設置をして、呼びかけることができないんでしょうか。お願いします。

○委員長（景山岩三郎） 答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 旧3町にもそのような看板を立てられないかということでございますが、旧3町に関しましては、今後、いろいろああいう屋外広告物の関係でございますので、いろんな点に関しまして、やはり課題等もあると思いますので、今後研究していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

（「根拠はわからないね、1か所にしている」の声あり）

○委員長（景山岩三郎） 総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 看板の、なぜあそこに1か所なのかとかということなんですけれども、やはり何か所かあった中で、老朽化により減らしてきて、結果的にあそこになったということで、外にあるものは、やはりそのように老朽化するということがネックになっているところでございますけれども、今現在、別の媒体で啓発することも可能になっているということで、今、1か所ということになっているのが現状でございます。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 例えば、市会議員選挙なんかになると、これはちょっとシビアで、デリケートな問題になろうかと思うんです。であれば、いっそのことなくしてもらうとか、あとは旧市だとか、そうしたら一中学区にないじゃないかとかあるかも分からないので、しっかりと調査をした上で、看板の書き換え、しっかりと予算、税金が出ているわけだから、早めにその辺の判断をしてもらえないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員長（景山岩三郎） 質疑に対し答弁を求めます。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 選挙管理委員会のほうといたしましても、やはり公正公平な立場を考えながら、今後、研究、検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思

思います。

○委員長（景山岩三郎） ほかにございますか。

（発言する人なし）

○委員長（景山岩三郎） 特にないようですので、議案第 15 号の質疑を終わります。

総務課長。

○総務課長（山崎剛成） 先ほどのちょっと 1 件、答弁漏れがあったのを。

○委員長（景山岩三郎） どうぞ。

○総務課長（山崎剛成） 先ほど、林委員のほうから質疑ございました、人事院勧告関係の条例のときの質疑の中で、本会議での回答をさせていただきました。市内の 50 人以上の事業所の業種ということで、区分ごとの業種のほうの数字が出ましたので、回答させていただきます。

まず、製造業です。多い順に言いますと、製造業が 20 事業所、あと医療福祉関係が 12 事業所、あと卸売業・小売業で 11 事業所というところが主なものとなっています。

以上です。

○委員長（景山岩三郎） 以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（景山岩三郎） これより討論を省略して、議案の採決を行います。

議案第 1 号、令和 6 年度一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（景山岩三郎） 全員賛成。

よって、議案第 1 号は原案のとおり可決されました。

議案第 2 号、旭市議会議員の議員報酬及び旅費等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（景山岩三郎） 全員賛成。

よって、議案第 2 号は原案のとおり可決されました。

議案第 3 号、旭市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(景山岩三郎) 全員賛成。

よって、議案第 3 号は原案のとおり可決されました。

議案第 4 号、旭市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(景山岩三郎) 全員賛成。

よって、議案第 4 号は原案のとおり可決されました。

議案第 5 号、旭市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(景山岩三郎) 全員賛成。

よって、議案第 5 号は原案のとおり可決されました。

議案第 6 号、旭市使用料及び手数料に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(景山岩三郎) 全員賛成。

よって、議案第 6 号は原案のとおり可決されました。

議案第 10 号、千葉県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び千葉県市町村総合事務組合同規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(景山岩三郎) 全員賛成。

よって、議案第 10 号は原案のとおり可決されました。

議案第 12 号、指定管理者の指定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(景山岩三郎) 全員賛成。

よって、議案第 12 号は原案のとおり可決されました。

議案第 15 号、専決処分の承認について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長(景山岩三郎) 全員賛成。

よって、議案第 15 号は原案のとおり承認されました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は、終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(景山岩三郎) ご異議ないようですので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長(景山岩三郎) 以上をもちまして、本委員会を閉会いたします。

大変ご苦勞さまでございました。ありがとうございました。

閉会 午前 11 時 57 分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会総務常任委員会委員長 景山岩三郎